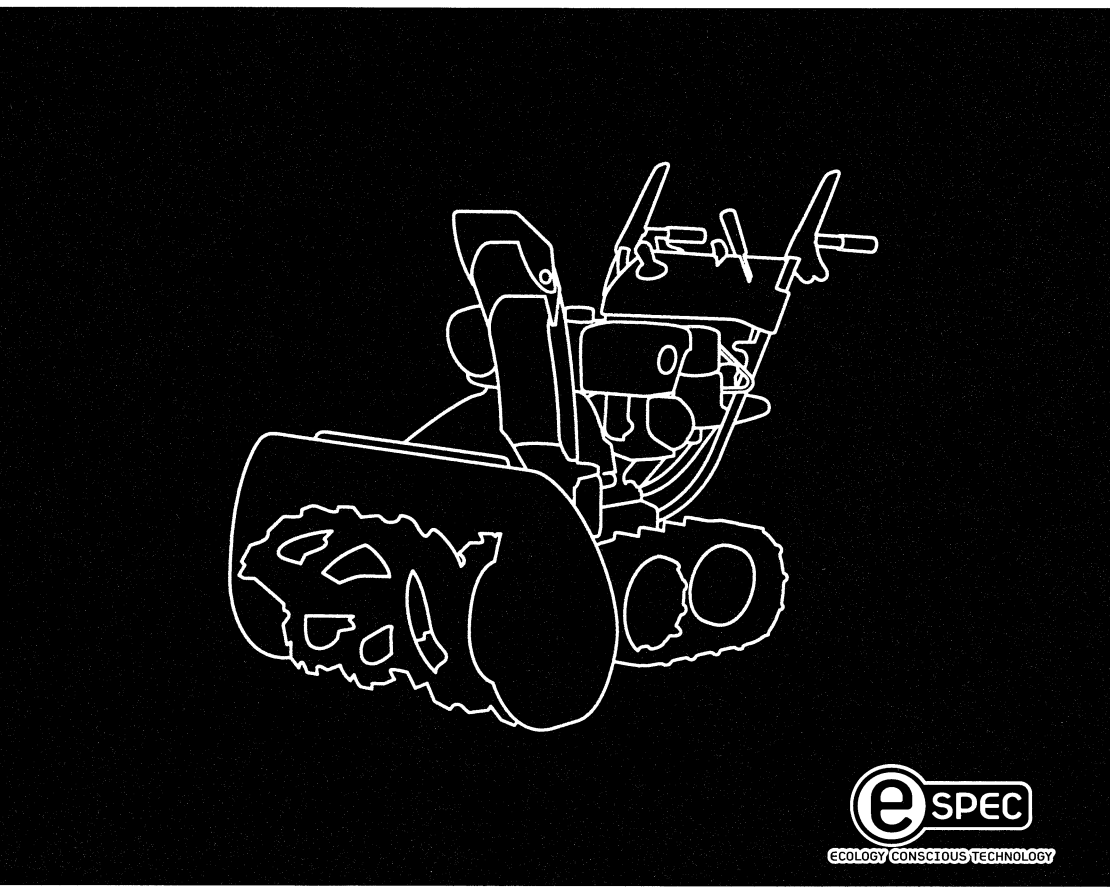
HONDA
汎用製品

# 除雪機
# HS660・HS760・HS970・HS1170
# HS660H・HS760H・HS970H・HS1170H
# 取扱説明書




ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

Honda除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

**●一般公道では使用できません。**

取扱説明書について

この取扱説明書は

－除雪作業をするときは、必ず携帯してください。

－除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

－紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証しです。
具体的には、世界トップレベルの環境技術を投入した汎用製品に表示しています。

# はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

**⚠危険**
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

**⚠警告**
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

**⚠注意**
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

**取扱いのポイント**
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書はHS970を中心に編集しています。

# 目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう……4
安全ラベル……9

各部の名称と取扱いをおぼえましょう……11
エンジン　スイッチ……13
燃料コック　レバー……13
始動グリップ……14
エンジン回転調節レバー
（HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970H）……14
エンジン回転調節レバー（HS1170/HS1170H）……15
チョーク　ノブ……15
変速レバー……16
投雪方向調節スイッチ……16
投雪方向調節ハンドル・投雪距離調節レバー……17
除雪クラッチ　レバー……17
走行クラッチ　レバー……18
ソリ、スクレーパ……18
オーガ　ハウジング調節レバー……19
雪かき棒……19
作業灯……20
HST切換えレバー……20
燃料計……21
変速機オイル　タンク……21
オーガ　ロック表示灯……22

エンジンをかける前に点検しましょう……23
ガソリンの点検……23
エンジン　オイルの点検……25
バッテリ液の点検……26
オーガ、ブロア　ロック　ボルトの点検……28
その他の点検……28

エンジンのかけかた……29

運転操作のしかた……41
1.ソリ、スクレーパの調節……41
2.オーガ　ハウジング高さの調節……43
3.始動……44
4.運転操作……44
5.除雪のしかた……47
6.オーガ　ロック表示灯が点灯し、エンジンが停止した場合……50

除雪機の止めかた……52

定期点検を行いましょう……55
定期点検整備項目……55

点検・整備のしかた……56
エンジン　オイルの交換……56
点火プラグの点検、調整、交換……57
クローラ張り調整……58
除雪部の点検……59
各部の作動点検……60
ヒューズについて……61

運搬するときは……62

長期間使用しないときの手入れ……64

故障のときは……68

主要諸元……69

配線図……70

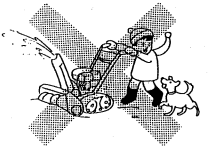
# 安全にお使いいただくために

## 警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

### ●作業を始める前に

- 過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」(23～28頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
- 適切な指示なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。



- カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前に予め除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。



- 作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒ぐつ等防寒用の身支度をしてください。また防寒ぐつはすべり止めのあるものを着用してください。

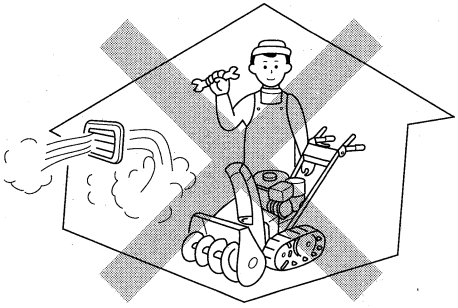
# これだけはぜひ守りましょう

## 警告

- 砂利道などの除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので除雪しないでください。
- 定められた点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。



- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。



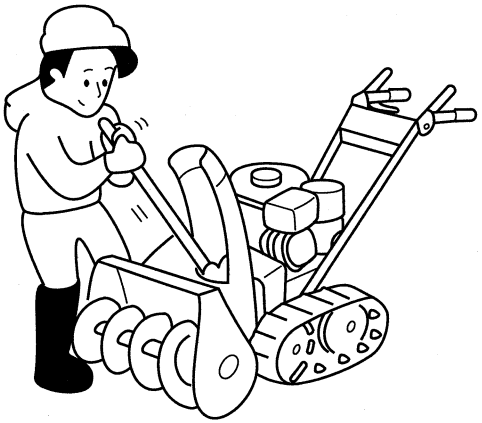
- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

## 警告

### ●作業中の注意

- 除雪部は回転しており誤って触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
- 除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足などを絶対に近づけないでください。
- 投雪方向を人や建物等に向けて使用しないでください。投雪方向の調節は状況に応じて適切に行ってください。
- 万一、雪の中に石などの異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
- 除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。

  エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。



## 警告

- 急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるので必ず変速レバーを“N”(中立)の位置にしてから走行クラッチ　レバーを握り、徐々に変速レバーを操作してください。
- 雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、決して走らないでください。また方向転回時は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。特に後進時には、足元および後方に十分注意してください。
- 共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。
- 除雪中障害物に当ったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し(57頁参照)、回転部が停止していることを確認してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- 除雪の速度に注意し過負荷にならないようにしてください。エンジンに悪影響をあたえます。
- 駐車をするときは平坦な場所を選んで駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

## 警告

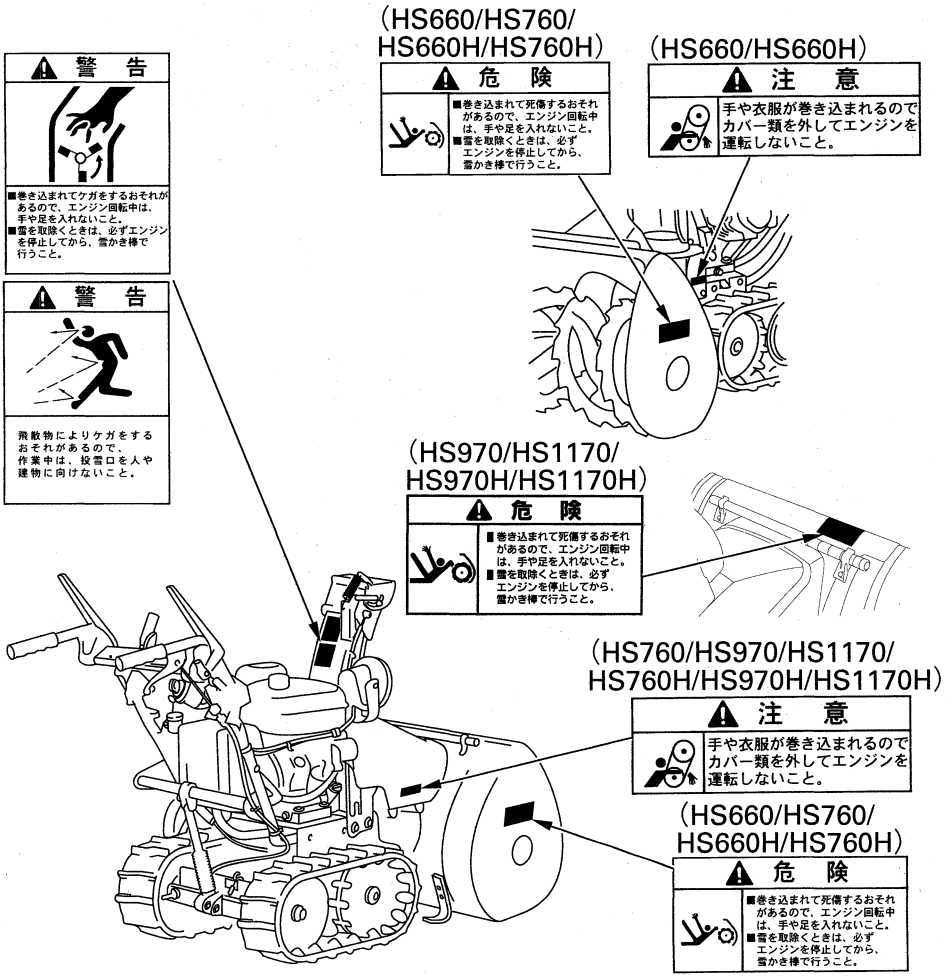
●作業が終ったら

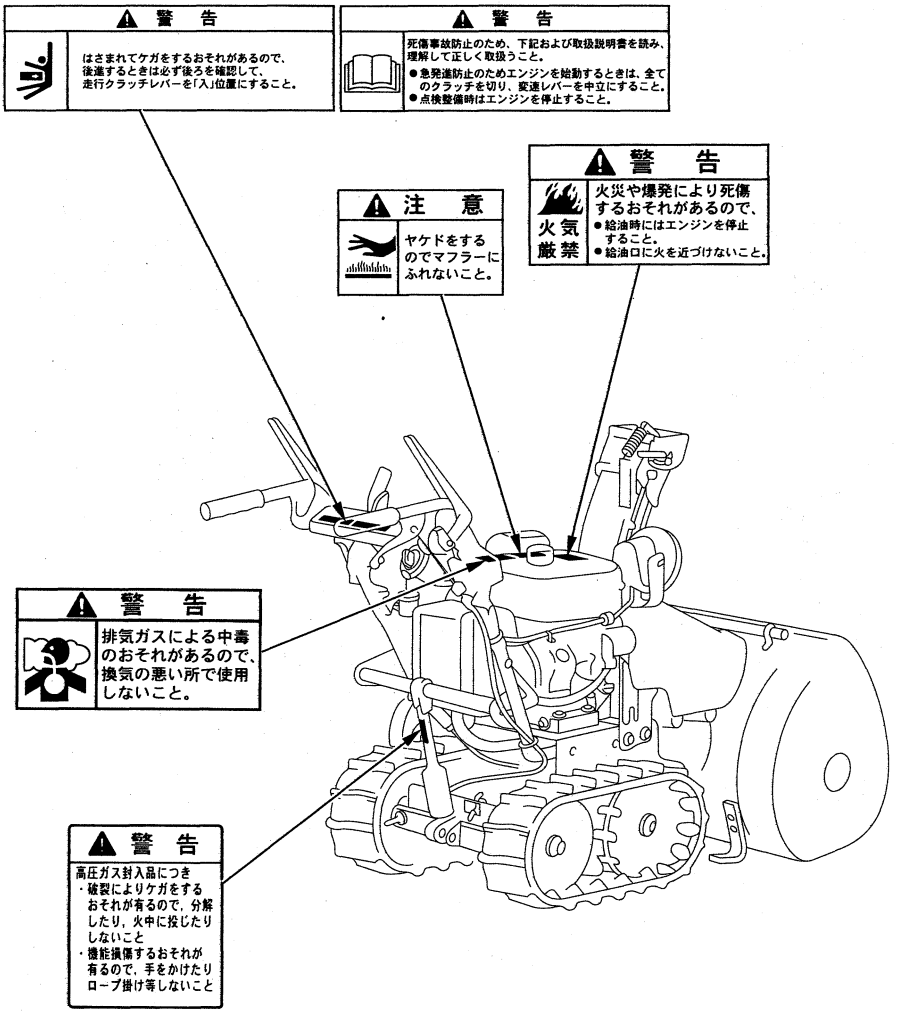
- 本機から離れるときには、オーガ　ハウジングを路面に接地させ、必ずエンジンを止め、エンジン　スイッチ　キーを外してください。いたずらなどで本機が動きだし、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機を格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディ　カバーなどをかけて格納してください。
- 長期保管前には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

## 安全ラベル

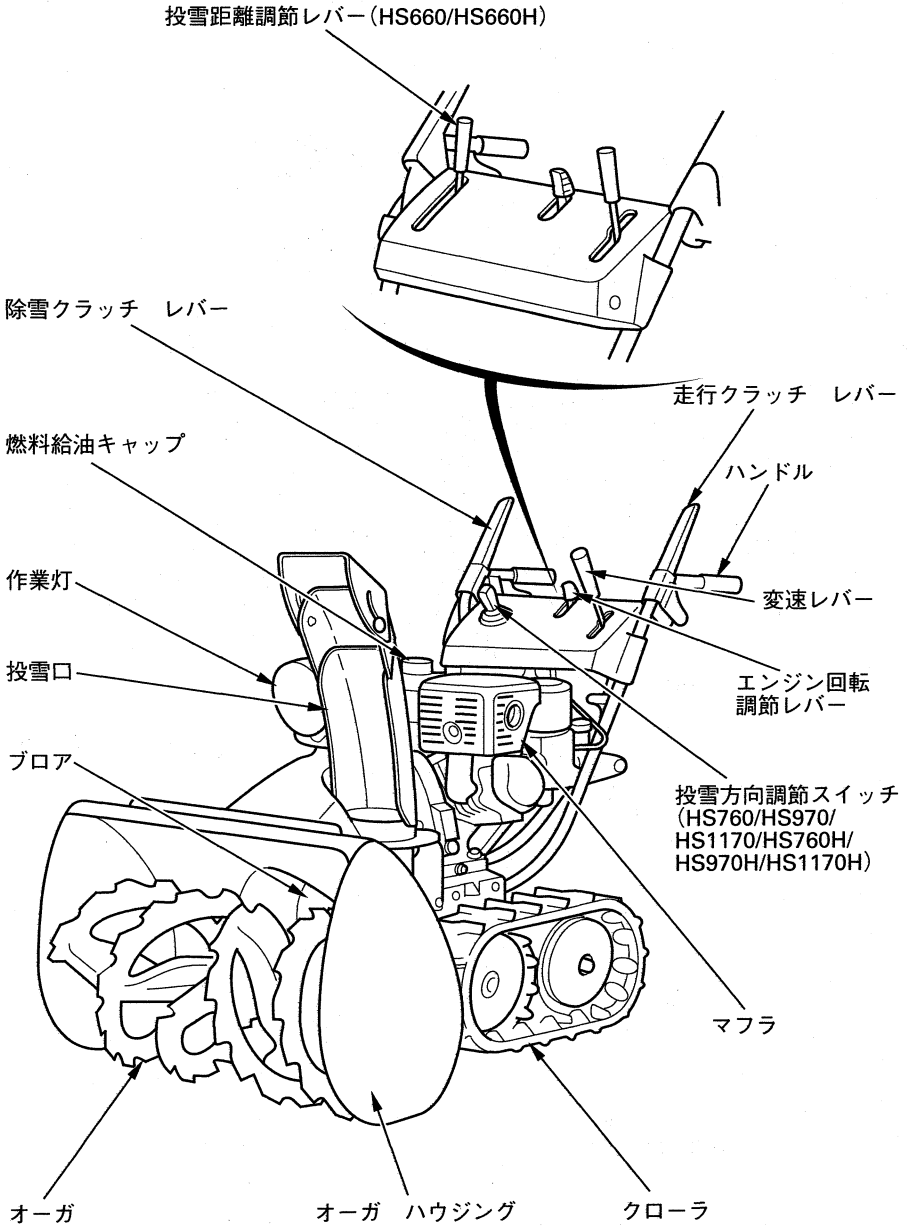
除雪機を安全に使用していただくため、本機は安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

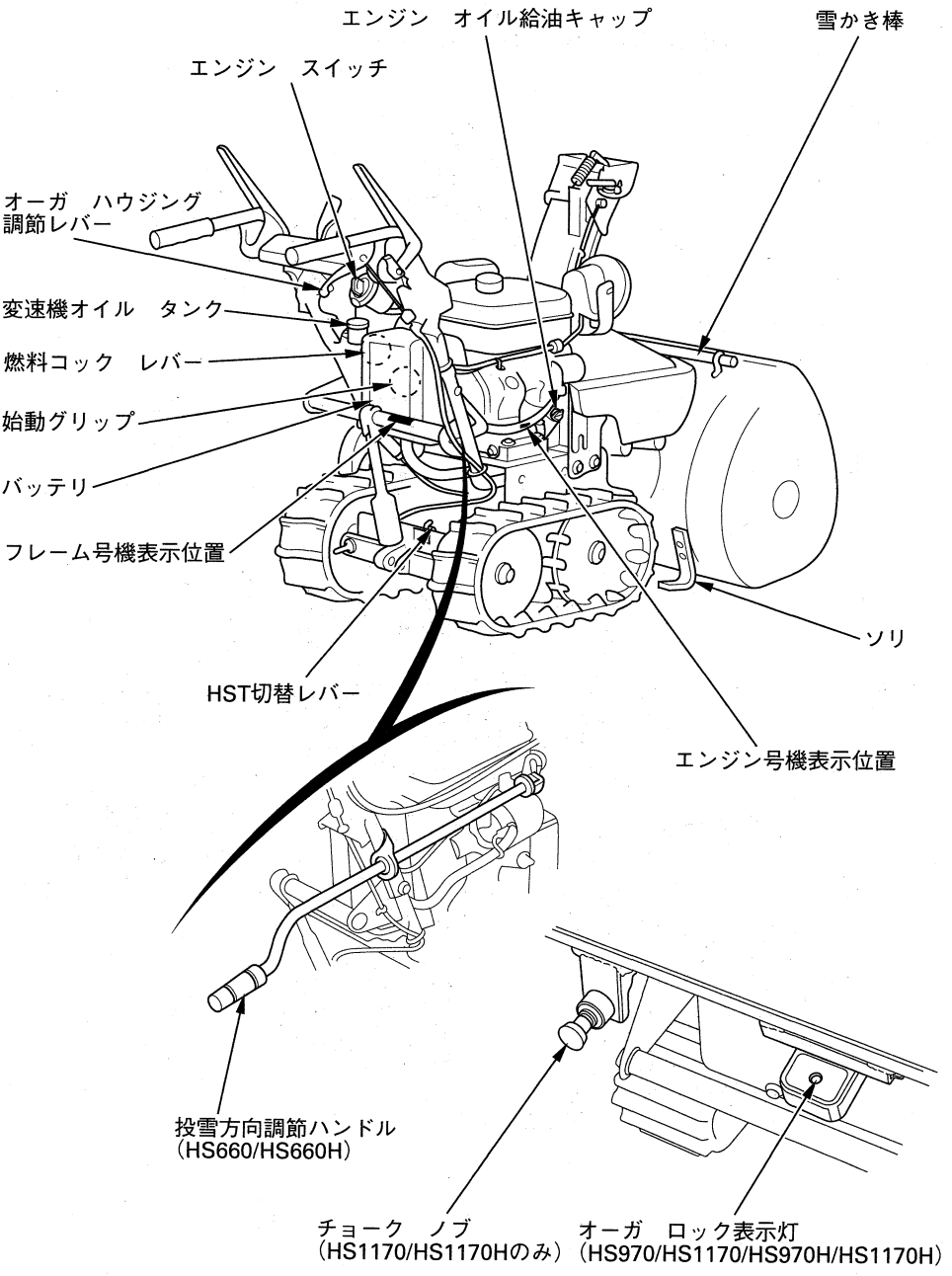
本機に貼ってあるラベルが、破れ、紛失、汚れなどで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。




⚠ 警 告
はさまれてケガをするおそれがあるので、
後進するときは必ず後ろを確認して、
走行クラッチレバーを「入」位置にすること。
⚠ 警 告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、
理解して正しく取扱うこと。
● 急発進防止のためエンジンを始動するときは、全て
のクラッチを切り、変速レバーを中立にすること。
● 点検整備時はエンジンを停止すること。
⚠ 警 告
火気厳禁
火災や爆発により死傷
するおそれがあるので、
● 給油時にはエンジンを停止
すること。
● 給油口に火を近づけないこと。
⚠ 注 意
ヤケドをする
のでマフラーに
ふれないこと。
⚠ 警 告
排気ガスによる中毒
のおそれがあるので、
換気の悪い所で使用
しないこと。
⚠ 警 告
高圧ガス封入品につき
・破裂によりケガをする
おそれが有るので，分解
したり，火中に投じたり
しないこと
・機能損傷するおそれが
有るので，手をかけたり
ロープ掛け等しないこと

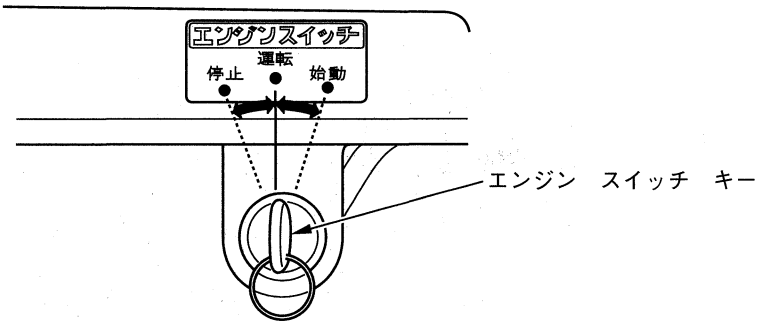
# 各部の名称と取扱いをおぼえましょう




エンジン　オイル給油キャップ
雪かき棒
エンジン　スイッチ
オーガ　ハウジング
調節レバー
変速機オイル　タンク
燃料コック　レバー
始動グリップ
バッテリ
フレーム号機表示位置
ソリ
HST切替レバー
エンジン号機表示位置
投雪方向調節ハンドル
(HS660/HS660H)
チョーク　ノブ
(HS1170/HS1170Hのみ)
オーガ　ロック表示灯
(HS970/HS1170/HS970H/HS1170H)

## エンジン　スイッチ

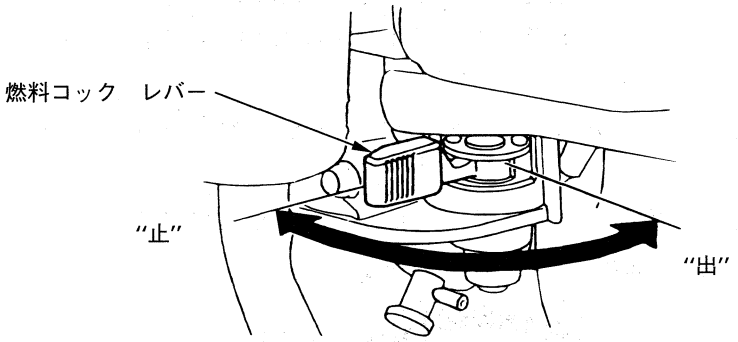
エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。




## 燃料コック　レバー

燃料タンクからキャブレータ(気化器)までの燃料通路を開閉するときに操作します。

操作は確実に“止”“出”の位置に合わせます。

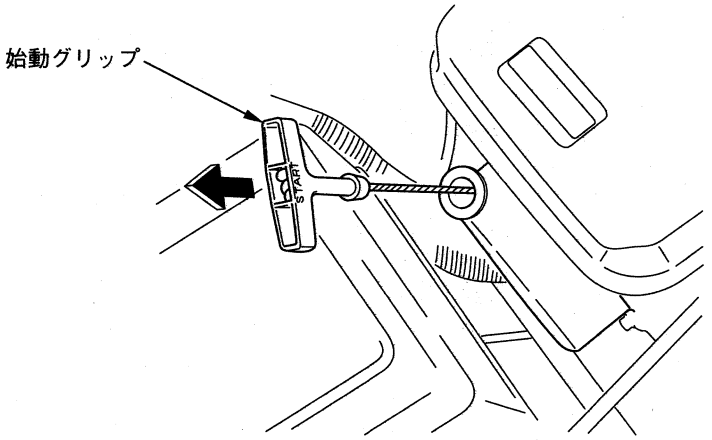



### ⚠警告

本機を運搬するときや、保管及び点検整備時本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れを防ぐためにレバーを“止”の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

## 始動グリップ

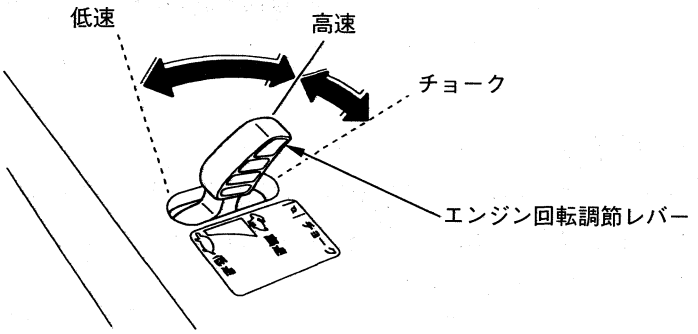
セルフ　スタータが使えない場合エンジンを始動するときに操作します。




## エンジン回転調節レバー（HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970H）

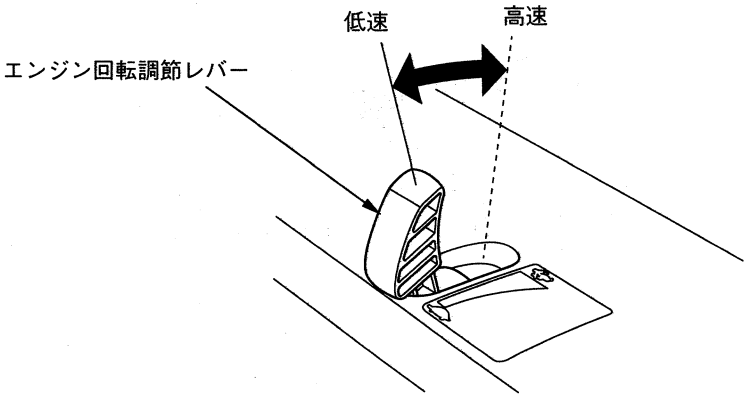
エンジン回転を調節するときに操作します。状況に応じて回転数を調節してください。

- エンジン始動時、エンジンが冷えているときは、**“チョーク”**の位置に合わせてください。
- エンジン始動時、エンジンが暖まっているときは、**“高速”**の位置に合わせてください。



## エンジン回転調節レバー（HS1170/HS1170H）

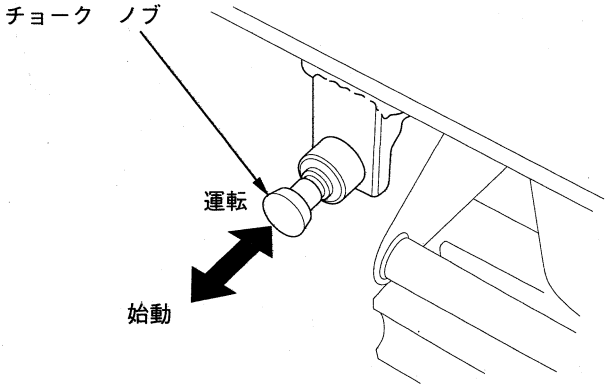
エンジン回転を調節するときに操作します。状況に応じて回転数を調節してください。




## チョーク　ノブ（HS1170/HS1170H）

エンジンが冷えているときに操作します。

- エンジン始動時、エンジンが冷えているときは、**“始動”**の方へいっぱいに引いてください。
- エンジン始動時、エンジンが暖まっているときは、**“運転”**の位置にしてください。

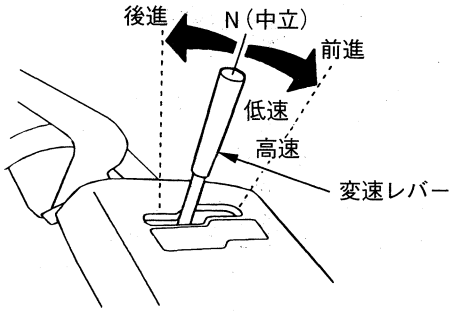


## 変速レバー

本機を前進、後進するときに操作します。

前進、後進が無段階に調節できます。

本機を使用しないときは**“N”(中立)**の位置にしてください。

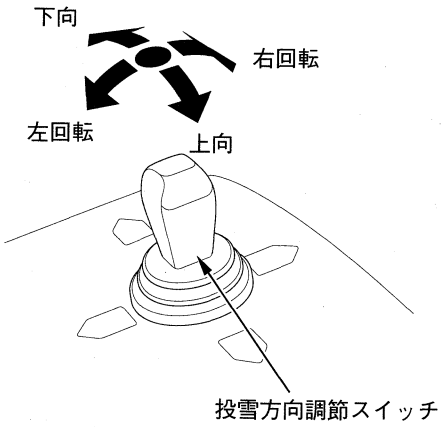


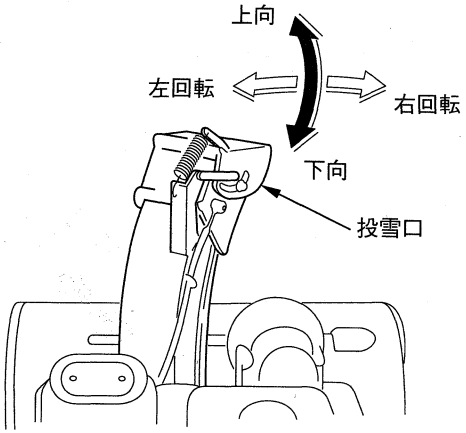

## 投雪方向調節スイッチ (HS760/HS970/HS1170/HS760H/HS970H/HS1170H)

投雪方向や距離を変える時に操作します。

エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にし、スイッチを操作することによって投雪口を上下、左右に無段階に調節することができます。

投雪方向調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。



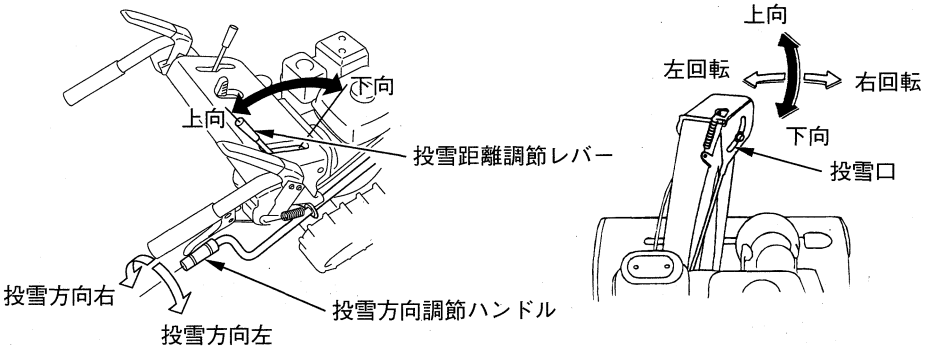
## 投雪方向調節ハンドル・投雪距離調節レバー （HS660/HS660H）

投雪方向調節ハンドルを操作します。

ハンドルを左に回わすと投雪方向が右になります。

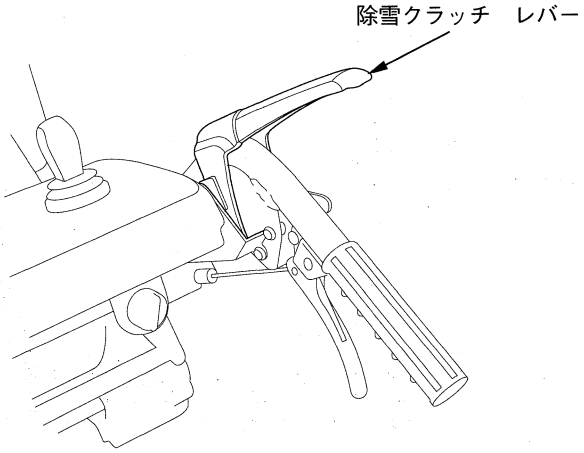
ハンドルを右に回わすと投雪方向が左になります。

投雪距離調節レバーを操作します。



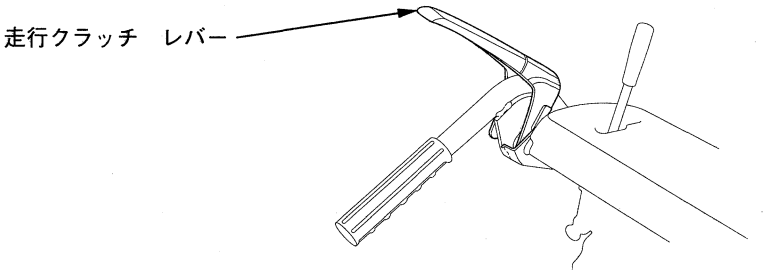

## 除雪クラッチ　レバー

除雪クラッチ　レバーを握るとオーガとブロアが回転します。レバーを離せば数秒後に止まります。



## 走行クラッチ　レバー

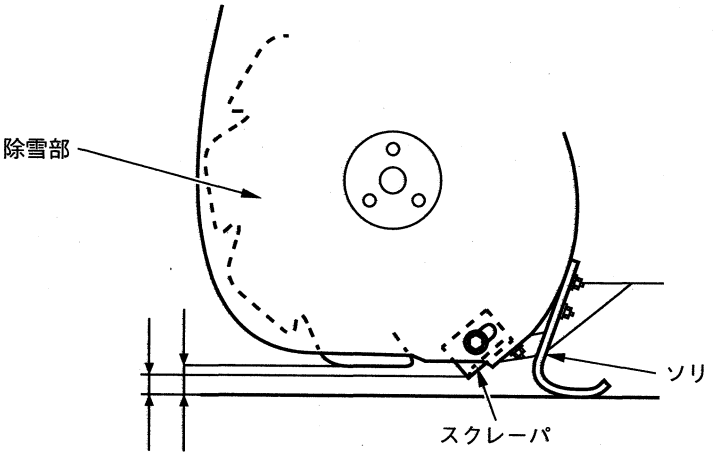
走行クラッチ　レバーを握ると走行し、離すと止まります。
(変速レバーが前進・後進のとき、およびHST切換えレバーが自走のとき、20 頁参照)




除雪クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーを連動して作動させることができます。(46 頁参照)

## ソリ、スクレーパ

除雪する路面の状態に合わせて調節してください。ソリは除雪部と路面との高さを決め、スクレーパは除雪面をならします。調節のしかたは、41 頁を参照してください。

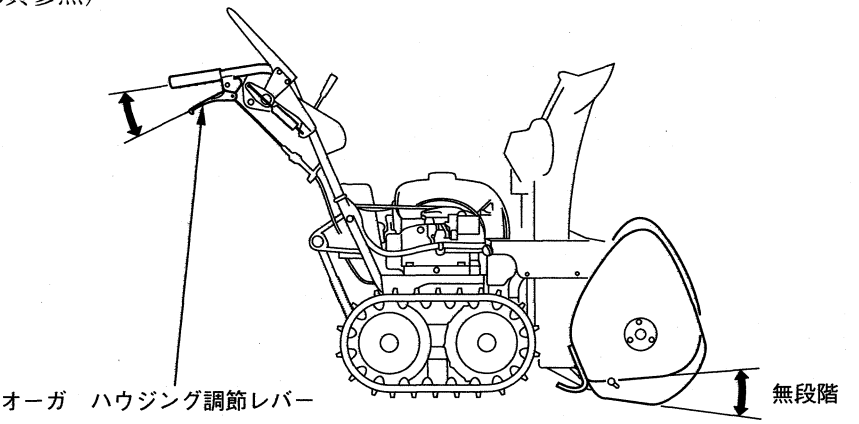


## オーガ　ハウジング調節レバー

除雪部の高さを調節するときに操作します。

除雪作業に合わせて、除雪部の高さを無段階に調節できます。

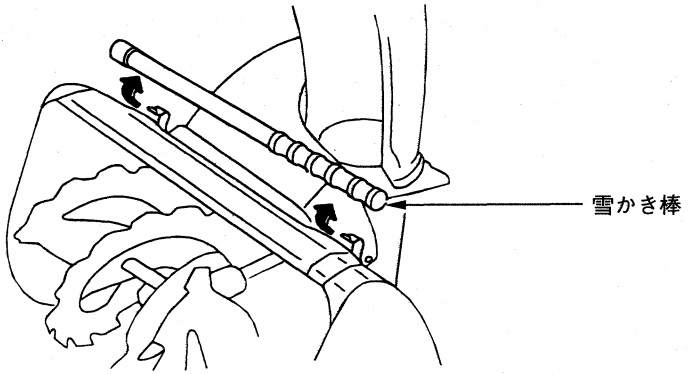
(43頁参照)




## 雪かき棒

雪が除雪部や投雪口に詰まったときに使用します。

雪かき棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取付け位置にセットしてください。

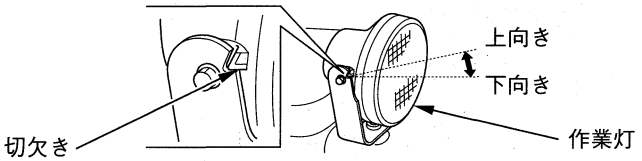


## 作業灯

エンジン運転中に点灯し、エンジンを停止すると消灯します。

エンジン スイッチを"運転"の位置にしただけでは点灯しません。

作業灯両側の取付けボルトをゆるめ、作業灯を上下に動かすことにより、切欠きの範囲で作業灯の投射方向を調節できます。




☆調節後は必ずボルトを確実に締付けてください。

## HST切換えレバー

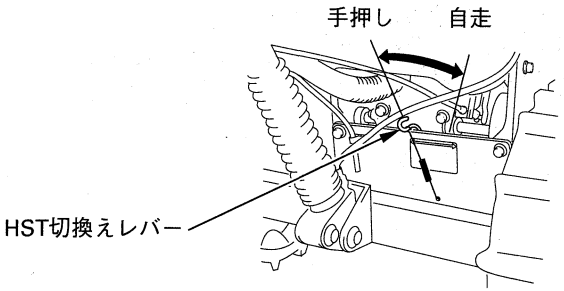
作業走行時は自走にしておきます。除雪機を手で押して移動する必要があるときには、手押しにします。

切換えるときは

1. エンジンを止めます。
2. 変速レバーを"N"(中立)にします。
3. HST切換えレバーを自走または手押しにセットします。

**⚠警告**

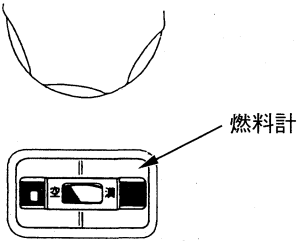
レバーの切換えは必ず平坦な場所で行ってください。斜面でHST切換えレバーを操作すると除雪機が動き出してしまうことがあり危険です。



## 燃料計

燃料の残量を示します。

燃料計の針が“空”に近づいたら早目に燃料を補給してください。




## 変速機オイル タンク

☆変速機オイルの点検は「作業前点検」を必ず行ってください。

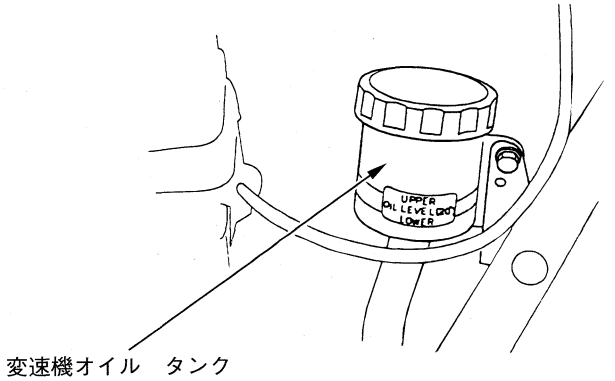
☆変速機オイルは専用オイルを使用しております。オイルの補充はお買いあげ販売店にお申しつけください。

指定オイル： Honda純正H−HSTオイル

☆オイルは熱の影響で膨張したり収縮したりして容量が変化します。

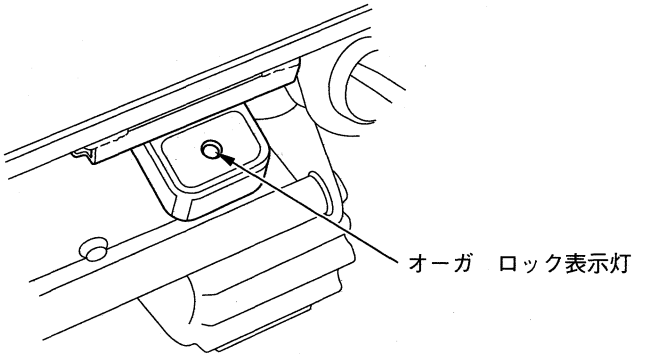
外気温が低いとき(約−20°C以下)運転前には変速機オイル タンクのオイル レベルが見えない場合がありますが、これは異常ではありません。

除雪作業を行い変速機が暖まってくると、オイル レベルが見える様になります。



## オーガ　ロック表示灯（HS970/HS1170/HS970H/HS1170H）

回転しているオーガ部に石などの異物を噛んだり、縁石などに衝突した場合、オーガやオーガ　ミッションなどを保護するために、エンジンが停止して、オーガ　ロック表示灯が点灯（赤色）します。
異物の取除きは50頁の手順に従ってください。




### ⚠警告

オーガ部に噛みこんだ異物などを除去するときは、エンジンスイッチを“停止”の位置にし、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外してください。
各回転部が完全に止まっている状態で異物を取除いてください。
エンジンや各回転部が回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

# エンジンをかける前に点検しましょう

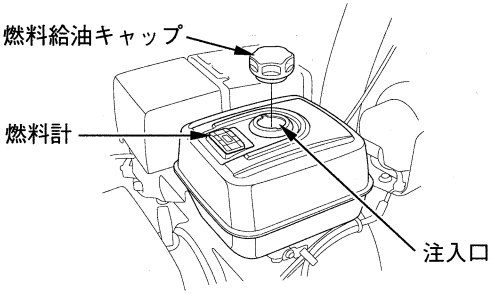
**⚠警告**

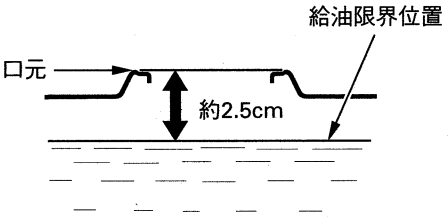
点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップをはずして行ってください。

## ガソリンの点検

### 点検

燃料計の針が"満"の位置にあるか確認します。少ないときには図の給油限界位置まで補給してください。




### 補給

使用燃料：自動車用無鉛レギュラーガソリン

- 補給は燃料キャップを外し、燃料膨張を考慮し口元から約2.5cm以上の余裕を取ってください。
- 使用条件により給油限界位置はさらに低くしてください。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

**取扱いのポイント**

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

## ⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
・エンジンを停止してください。
・火気を近づけないでください。
・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。
・燃料は注入口の口元まで入れず給油限界を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

## 取扱いのポイント

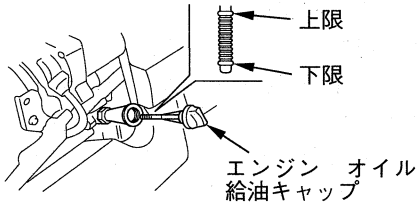
除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入るとエンジン不調の原因になります。

## エンジン　オイルの点検

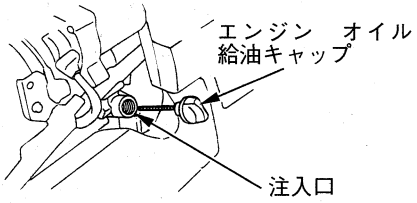
### 点検

HS660/HS760/HS660H/HS760H……　エンジンを水平にして、オイル給油キャップを外します。キャップをねじこまず差し込んで、キャップの上限までオイルがあるか点検してください。

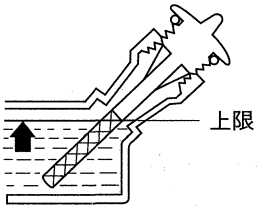
HS970/HS1170/HS970H/HS1170H……　エンジンを水平にしてエンジン　オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



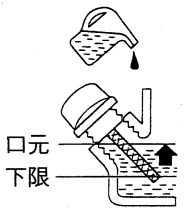

（HS660/HS760/HS660H/HS760H）




（HS970/HS1170/HS970H/HS1170H）




（HS660/HS760/HS660H/HS760H）




（HS970/HS1170/HS970H/HS1170H）

### 補給

☆油面が下限に近いときには新しいオイルを上限（HS660/HS760/HS660H/HS760H）、または口元（HS970/HS1170/HS970H/HS1170H）まで補給します。

☆汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は56頁参照）

推奨オイル：（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジン　オイル。

オイル容量：HS660/HS660H …　0.55ℓ　HS760/HS760H…　0.6ℓ
HS970/HS1170/HS970H/HS1170H …　1.1ℓ

**取扱いのポイント**

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

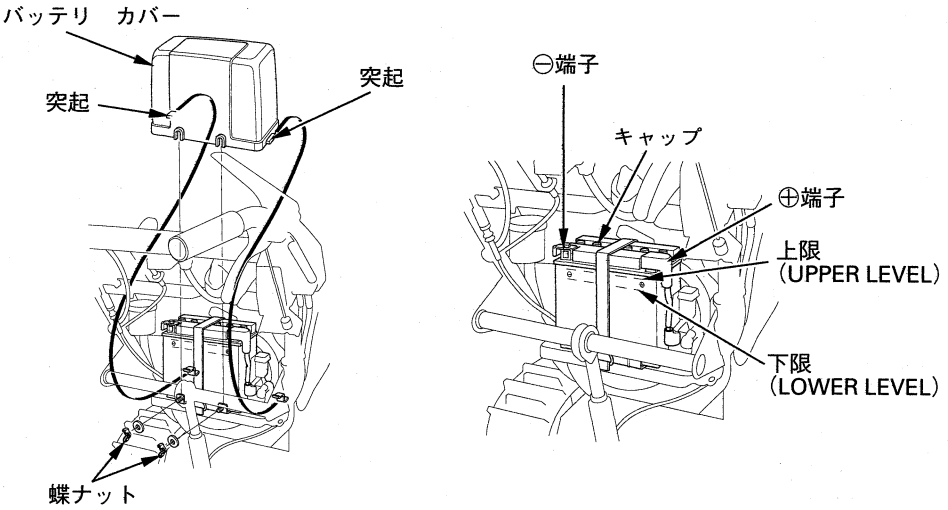
## バッテリ液の点検

### ⚠警告

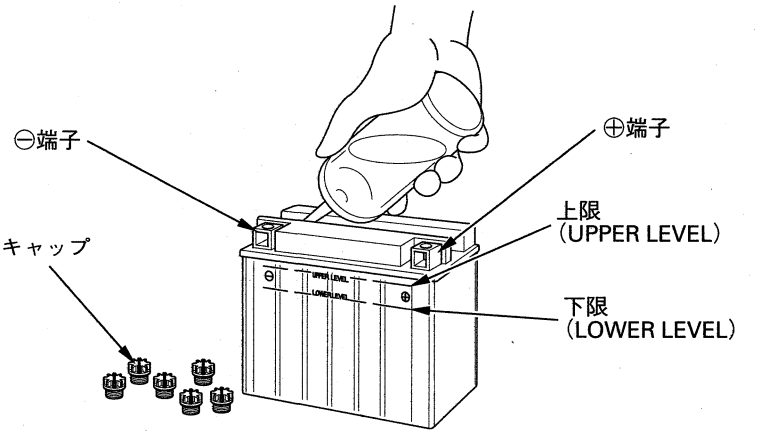
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。
  バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。
  破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

《点検のしかた》

1. バッテリ　カバー下部の蝶ナット2個を外し、バッテリ　カバーを取外します。
2. バッテリの液面が各槽とも上限(UPPER LEVEL)と下限(LOWER LEVEL)の間にあるか点検してください。
   同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。



《バッテリ液の補充》
バッテリ液が少ないときはバッテリを本機から取外して、キャップを外し、バッテリ補充液(蒸留水)を上限(UPPER LEVEL)まで補給します。
バッテリの取外し・取付けは、66 頁の手順で行ってください。




☆端子のゆるみ、腐食は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは確実に締付けてください。
☆端子に白い粉がついている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。
☆長期保管後使用するときや、バッテリが上がり気味のときは補充電を行ってください。

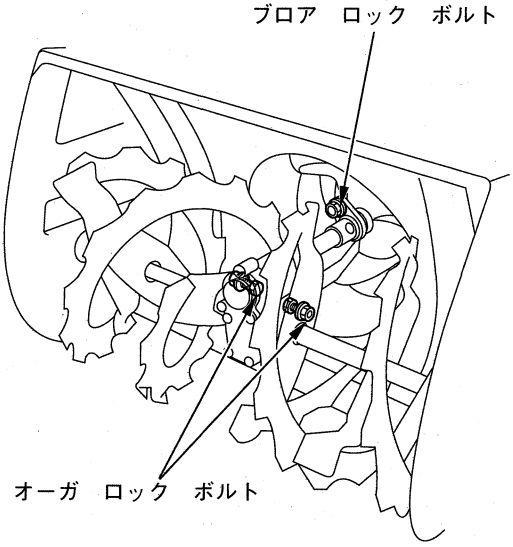
3. バッテリ　カバー部の突起を図の位置(26 頁)にさし込み、蝶ナット 2 個を確実に締付けしてください。

**取扱いのポイント**

- 長時間使用しない場合には、バッテリの⊖端子を外しておいてください。
  長期間保管中は、6 か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

## オーガ、ブロア　ロック　ボルトの点検

オーガ、ブロア ロック ボルトのゆるみ、折れを点検します。もし折れている場合は59頁の手順に従って交換してください。




☆オーガ、ブロアのロック　ボルトは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わった際に、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

## その他の点検

次の点検も忘れずに行ってください。

1. 各部の締付け、ゆるみ、ガタはないか
2. 各部の作動状態
3. 異常箇所……前日悪かった所はないか

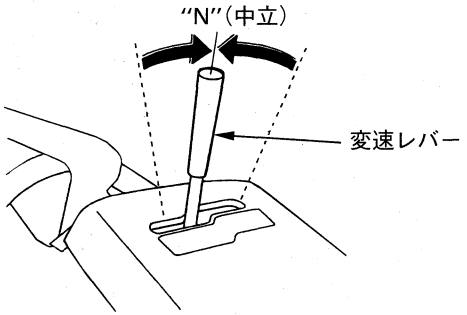
# エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

**⚠警告**

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。急な坂道で変速レバーを“N”(中立)の位置にすると本機が空走する場合があります。

セルフ　スタータを使用する場合

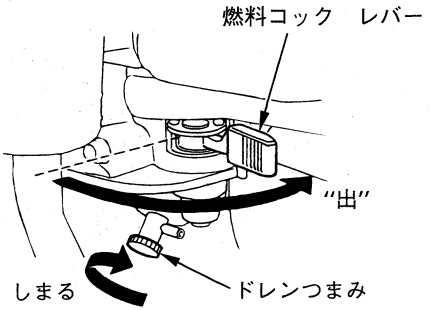
1. 変速レバーを“N”(中立)の位置にしてください。




2. ドレンつまみが確実にしまっているか確認し、燃料コック　レバーを“出”の位置に合わせます。

**⚠警告**

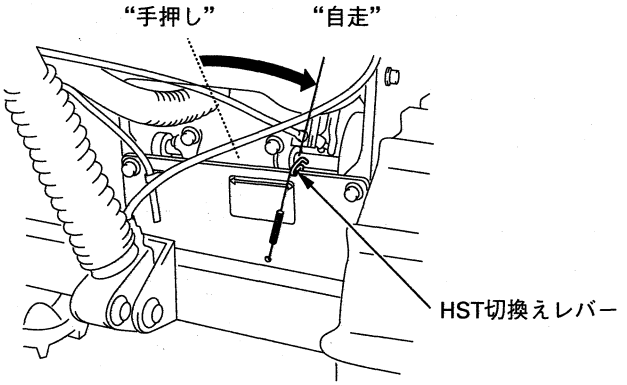
ドレンつまみがゆるんでいるとガソリンが漏れる場合があり危険です。



3. HST切換えレバーを“自走”の位置にしてください。

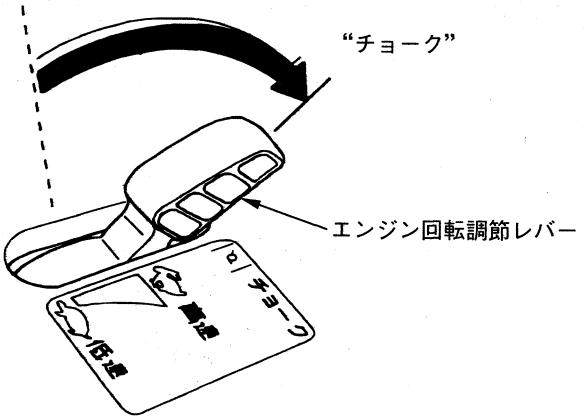
**取扱いのポイント**

HST切換えレバーを“自走”の位置にしないと走行クラッチ　レバーを握っても走行しません。



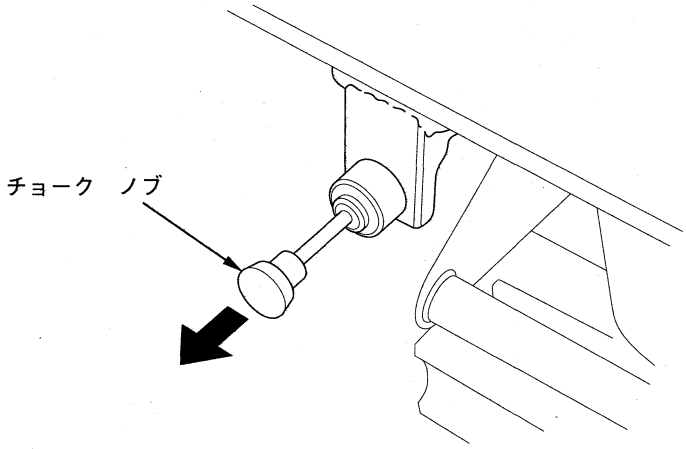

4. HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970H:

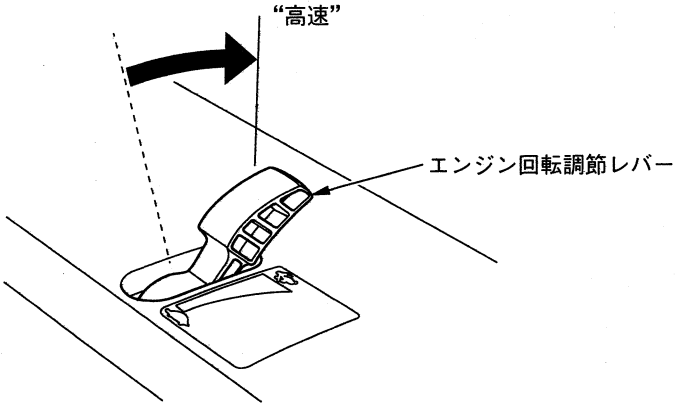
- エンジンが冷えているときは、エンジン回転調節レバーを“チョーク”の位置に合わせてください。
- エンジンが暖まっているときは、エンジン回転調節レバーを“高速”の位置に合わせてください。



HS1170/HS1170H:

- エンジンが冷えているときは、チョーク　ノブをいっぱいに引いてください。
  エンジンが暖まっているときは、チョーク　ノブは操作しないでください。
- エンジン回転調節レバーを**“高速”**の位置にします。

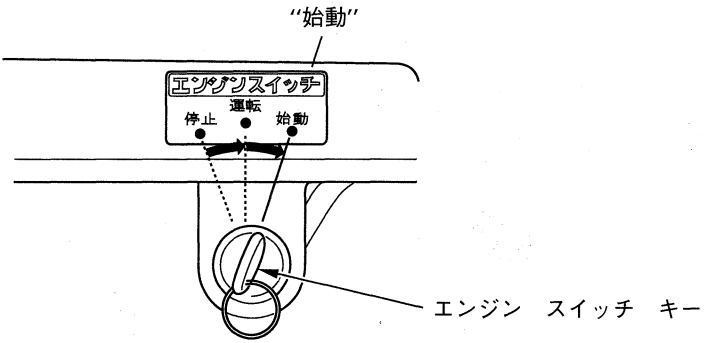


5. エンジン　スイッチを“始動”の位置まで回し、スタータをまわします。
エンジンが始動したらスイッチから手を離してください。“運転”の位置に戻ります。

## ⚠注意

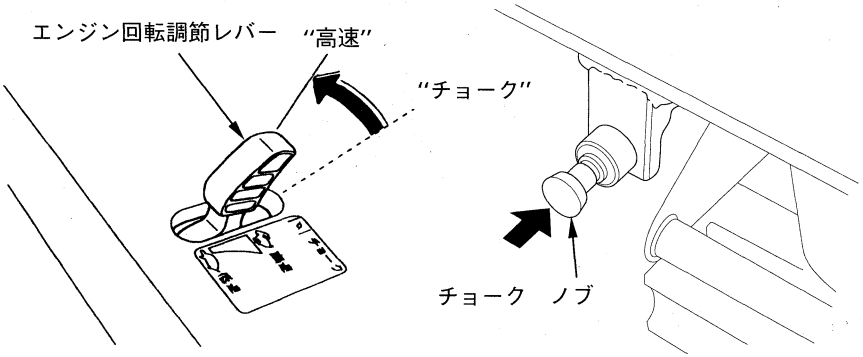
スタータを回す時は、除雪クラッチ　レバーおよび走行クラッチ　レバーを絶対に操作しないでください。エンジンが始動すると同時に本機が動き出し思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。




## 取扱いのポイント

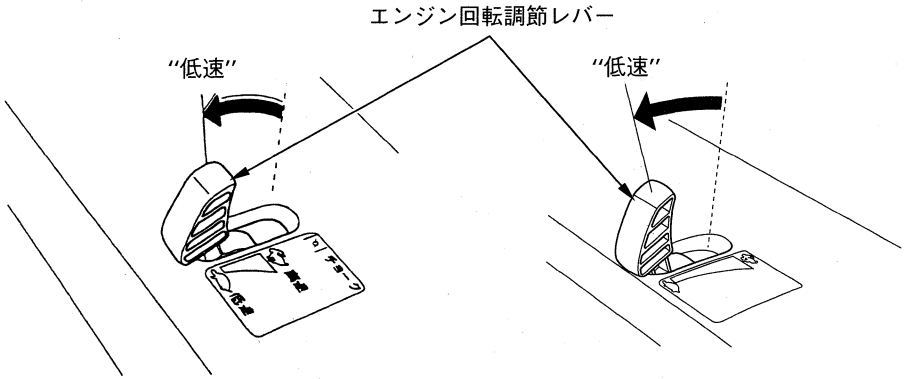
スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。

6. HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970H:
エンジン回転調節レバーが**"チョーク"**位置のときは、始動後エンジン回転が安定するのを確認しながら**"高速"**の位置に戻してください。
HS1170/HS1170H:
チョーク　ノブを引いたときは、始動後エンジン回転が安定するのを確認しながら元に戻してください。




(HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970H)　(HS1170/HS1170H)

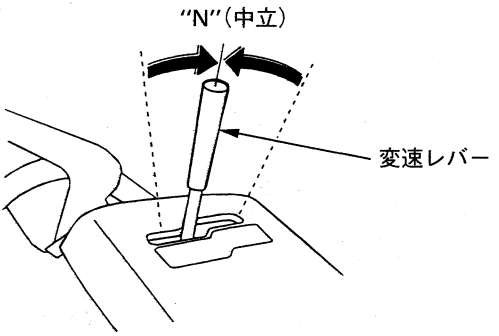
7. エンジン回転が安定するのを確認しながらエンジン回転調節レバーを**"低速"**の位置に戻し、暖機運転を行ってください。



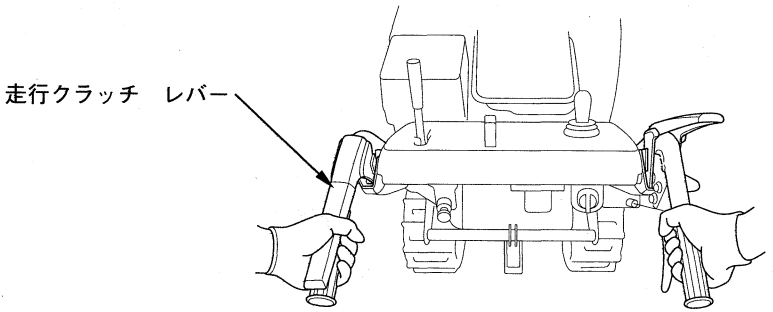

(HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970H)　(HS1170/HS1170H)

8. 暖機運転中に次の手順で変速機オイルを暖めてください。

①変速レバーが"N"(中立)になっていることを、もう一度確認してください。

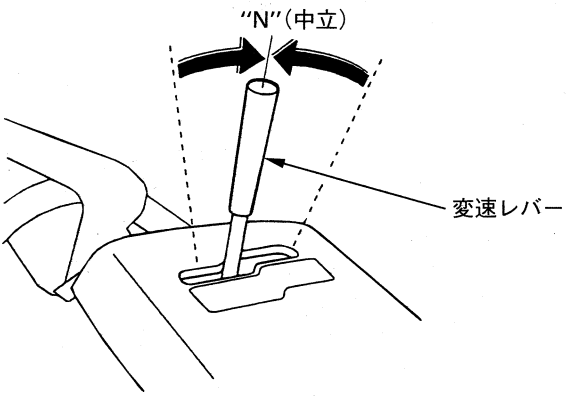



②約30秒ほど走行クラッチ　レバーを握りつづけてください。



バッテリ上がり、ヒューズ切れ等によりセルフ スタータが使えない場合

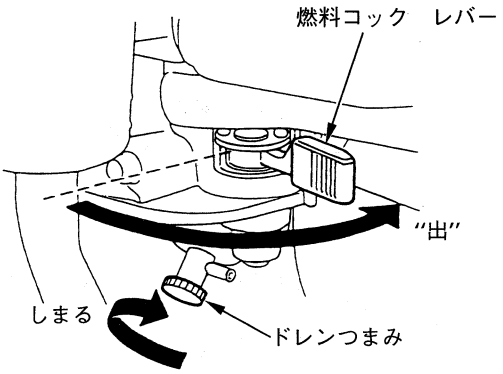
1. 変速レバーを“N”(中立)の位置にしてください。




2. ドレンつまみが確実にしまっているか確認し、燃料コック　レバーを“出”の位置に合わせます。

**⚠警告**

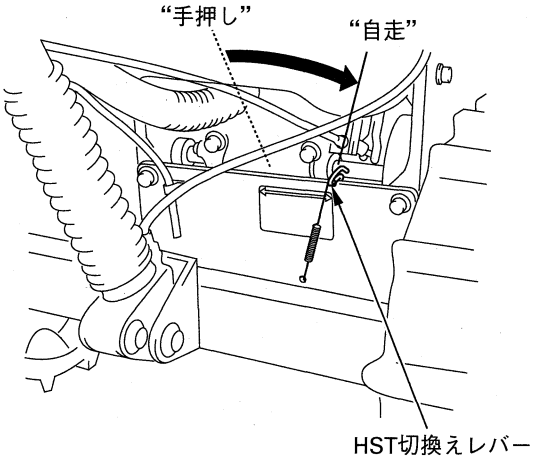
ドレンつまみがゆるんでいるとガソリンが漏れる場合があり危険です。



3. HST切換えレバーを“自走”の位置にしてください。

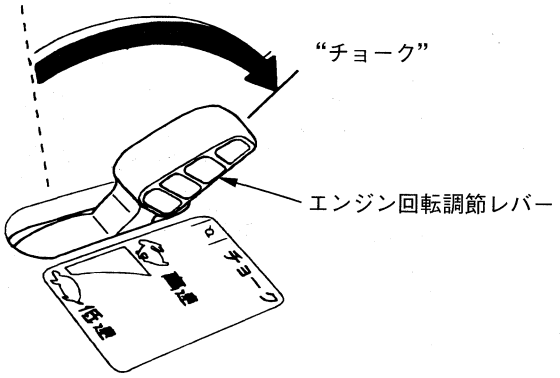
**取扱いのポイント**

HST切換えレバーを“自走”の位置にしないと走行クラッチ　レバーを握っても走行しません。



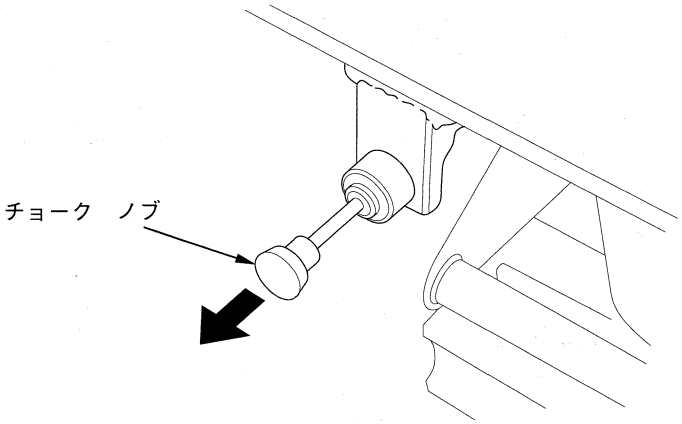

4. HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970H:

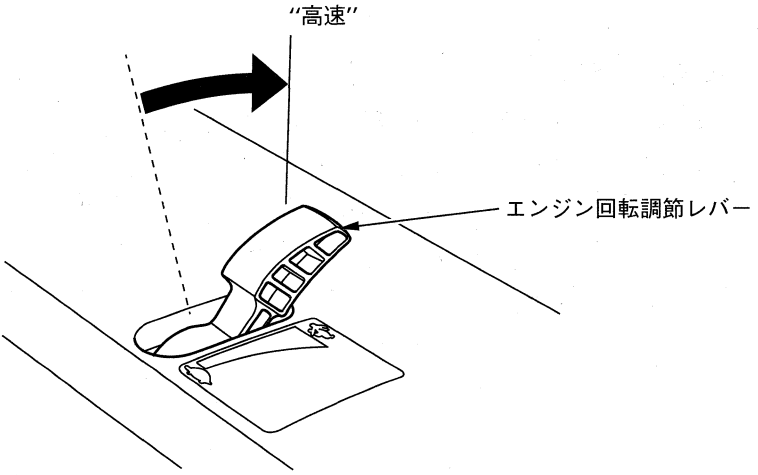
- エンジンが冷えているときは、エンジン回転調節レバーを“チョーク”の位置に合わせてください。
- エンジンが暖まっているときは、エンジン回転調節レバーを“高速”の位置に合わせてください。



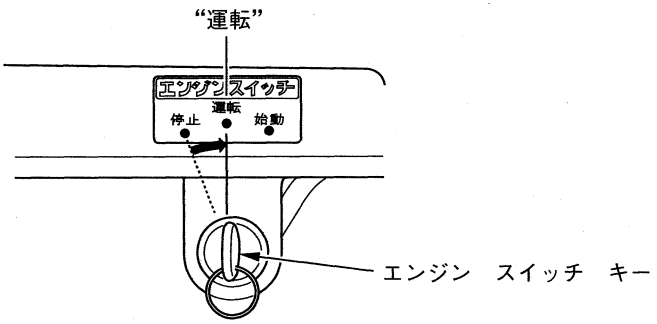
HS1170/HS1170H:

- エンジンが冷えているときは、チョーク　ノブをいっぱいに引いてください。
  エンジンが暖まっているときは、チョーク　ノブは操作しないでください。
- エンジン回転調節レバーを**"高速"**の位置にします。

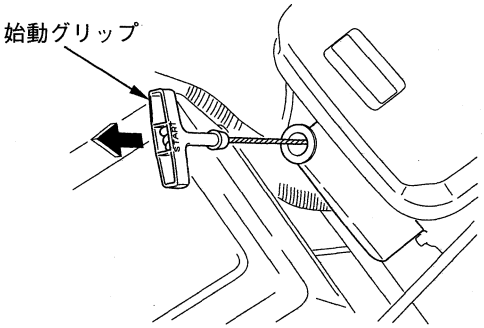


5. エンジン スイッチを**“運転”**に合わせます。



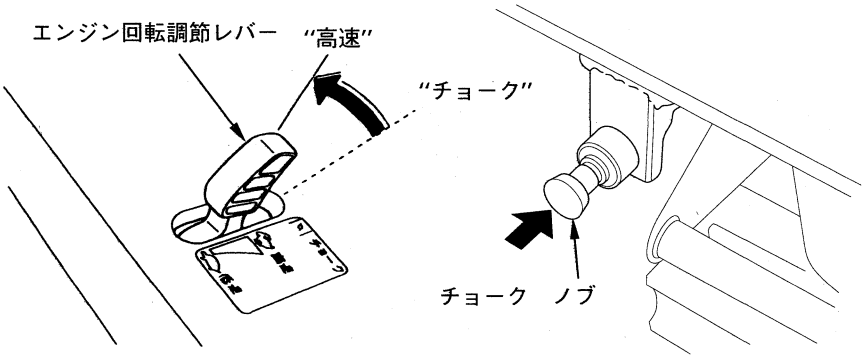

6. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。




**取扱いのポイント**

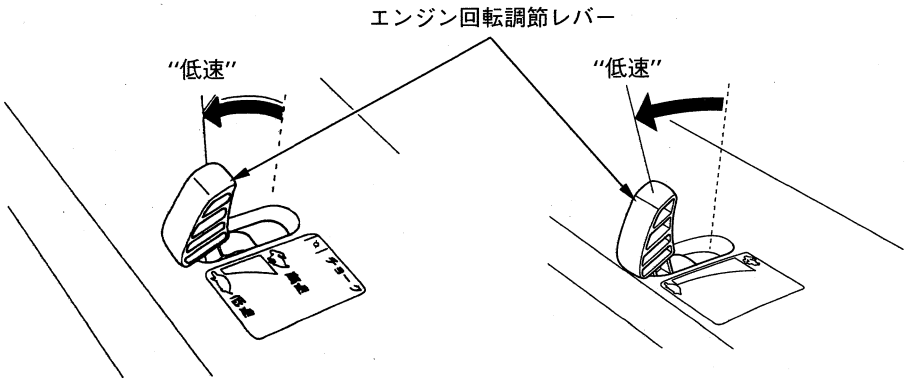
始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。始動装置を破損することがありますので静かにもとの位置にもどしてください。
運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

7. HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970H:
エンジン回転調節レバーが**"チョーク"**位置のときは、始動後エンジン回転が安定するのを確認しながら**"高速"**の位置に戻してください。
HS1170/HS1170H:
チョーク　ノブを引いたときは、始動後エンジン回転が安定するのを確認しながら元に戻してください。




(HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970H)　(HS1170/HS1170H)

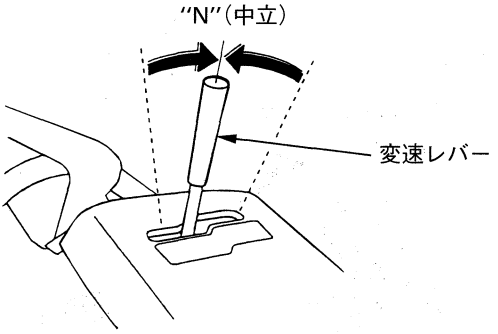
8. エンジン回転が安定するのを確認しながらエンジン回転調節レバーを**"低速"**の位置に戻し、暖機運転を行ってください。



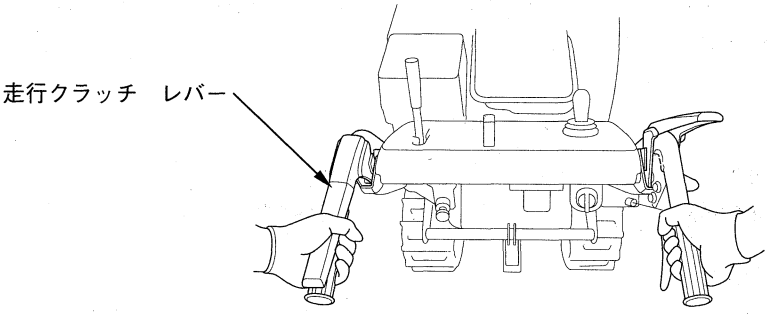

(HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970H)　(HS1170/HS1170H)

9. 暖機運転中に次の手順で変速機オイルを暖めてください。

①変速レバーが**"N"**(中立)になっていることを、もう一度確認してください。




②約30秒ほど走行クラッチ　レバーを握りつづけてください。



# 運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

**⚠注意**

- 除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴などの防寒用の身支度をしてください。
- 本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。

**取扱いのポイント**

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

除雪作業は雪質など雪の状態に影響されます。最適な除雪作業をするため、必要に応じてソリ、スクレーパ、オーガ　ハウジング高さを調節してください。

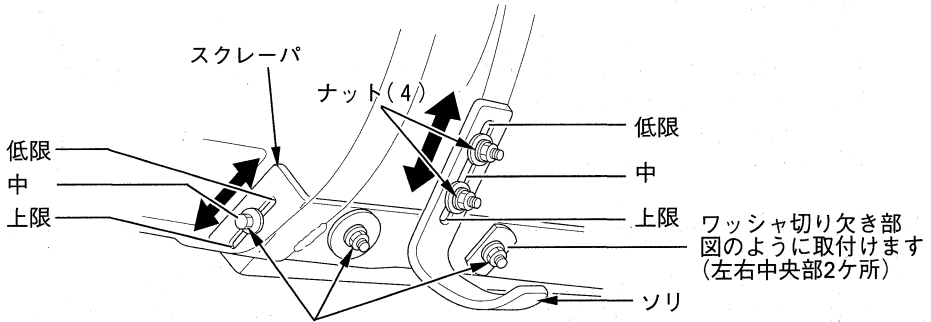
## 1.ソリ、スクレーパの調節

**⚠警告**

ソリ、スクレーパを調節するときは、必ずエンジンを停止し誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを外して行ってください。

除雪する路面の雪の状態に合わせて、路面との高さを調節します。

1) 本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、エンジン　スイッチ　キーを抜きます。
2) オーガ　ハウジング調節レバーを操作して、除雪部を平坦路に接地させます。
3) 除雪する路面の状態に合わせて、ボルト、ナットをゆるめてソリとスクレーパの高さを調節します。

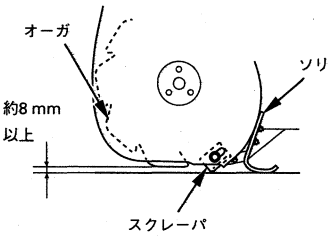


☆ソリは左右同じ高さに調節してください。
☆調節後は必ずボルトを確実に締付けてください。
☆段切作業用に調節した状態で路面出し作業を行わないでください。除雪部に悪影響をあたえます。

**●ソリの調節はこんなときに行います**

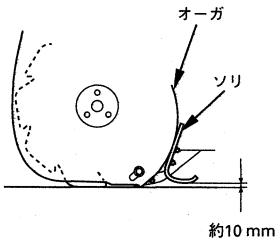
- 回転するオーガが路面に接触して困る場合:
- 砂利などが多い路面を除雪する場合:

オーガを路面から約8mm以上程度持ち上げた状態で、ソリを路面に接地させ、ソリを固定します。




- 屋根から落ちた固い雪などを崩したい場合:
- 締まった根雪などで、本機が食い込まず持ち上ってしまう場合:

オーガを路面に接地させた状態で、ソリを路面から約10mm程度持ち上げた状態でソリを固定します。

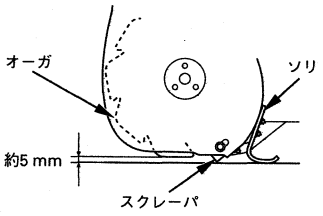



＊この場合は、路面にオーガが接触して路面を傷つけたり石飛びのおそれがありますので、注意してご使用ください。
又、一般的な条件で使用する場合は、元に戻してから使用してください。

**●スクレーパの調節はこんなときに行います**

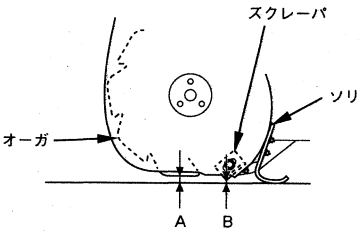
- 除雪した跡に雪が残ってしまい、もっときれいに仕上げたいとき:

オーガを路面から約5mm程度持ち上げた状態で、スクレーパを路面に接地させ、スクレーパを固定します。
ソリはスクレーパに合わせて調整します。




**標準位置(工場出荷状態)は、次のように調整されています。**

| | |
|---|---|
| A | 4−8 mm |
| B | 2−4 mm |



## 2．オーガ　ハウジング高さの調節

1) 左右のハンドルを両手で持ち、しっかりささえます。

2) オーガ　ハウジング調節レバーを握り込みます。オーガ　ハウジングの高さは、無段階に調節できます。

上げるとき･･･ハンドルを押し下げます。

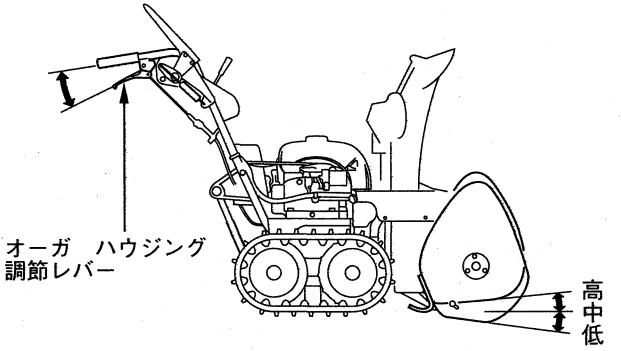
下げるとき･･･ハンドルを上げます。

3) オーガ　ハウジング調節レバーを離すと、オーガ　ハウジングが固定されます。このとき、オーガ　ハウジングが確実にロックされていることを確認してください。

高：段切除雪、後進及び移動の場合に使用してください。

中：一般除雪（通常はこの位置で除雪してください。）

低：固雪除雪（固い雪で除雪部が浮き上がりぎみのとき使用してください。）




### ⚠注意

- オーガ　ハウジング調節レバーを“高”の位置から操作するときは、ハンドルをしっかりささえてください。ハンドルが本機の自重により急激に戻される場合があります。
- “固雪除雪”の位置は、固くなった雪の除雪の場合のみ使ってください。
  柔らかい状態の雪や不整地でこの位置で使うと路面を傷付けたり、石飛びのおそれがあり危険です。また本機が破損する場合があります。

☆低位置にするときは、オーガ ハウジング調節レバーを握り込みハンドルを少し上げてから手を離すと簡単にロックができます。

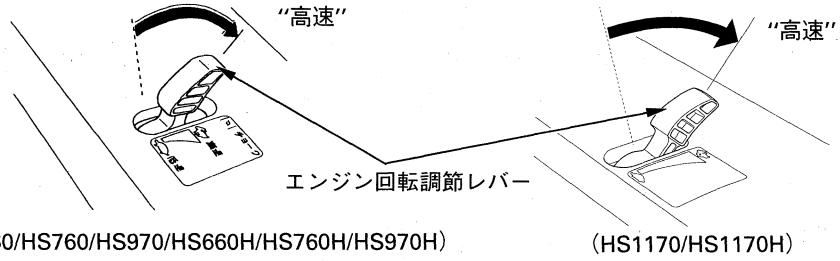
☆固雪除雪の為、オーガ位置をさらに低く調整するときは、販売店にご相談ください。

## 3．始動

始動については「エンジンのかけかた」29頁～40頁を参照してください。

## 4．運転操作

－1. エンジン回転調節レバーを**“高速”**の位置にします。

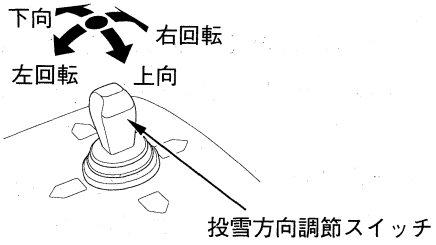


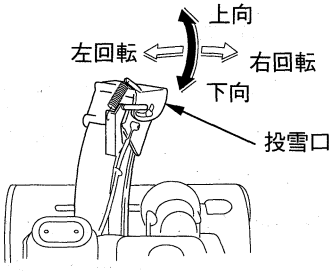

－2. 投雪距離と方向を調節します。

**⚠注意**

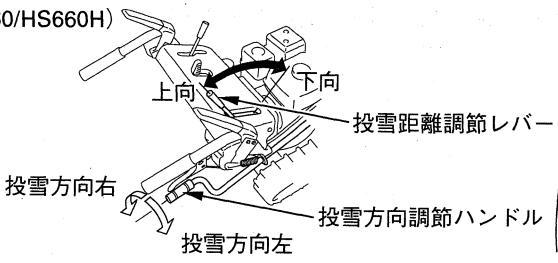
投雪距離や方向を変えるときには人や建物などに注意して行ってください。

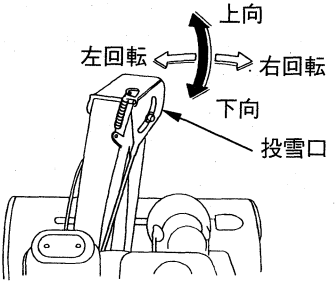
(HS760/HS970/HS1170/HS760H/HS970H/HS1170H)




(HS660/HS660H)

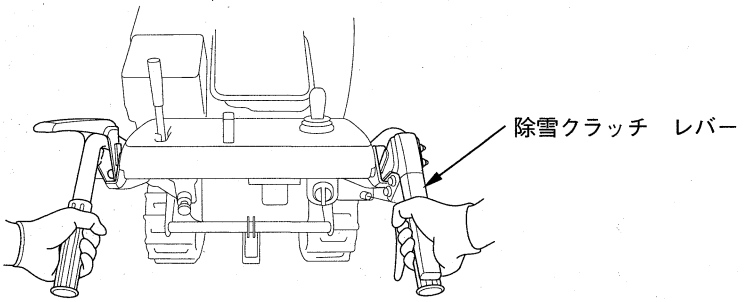


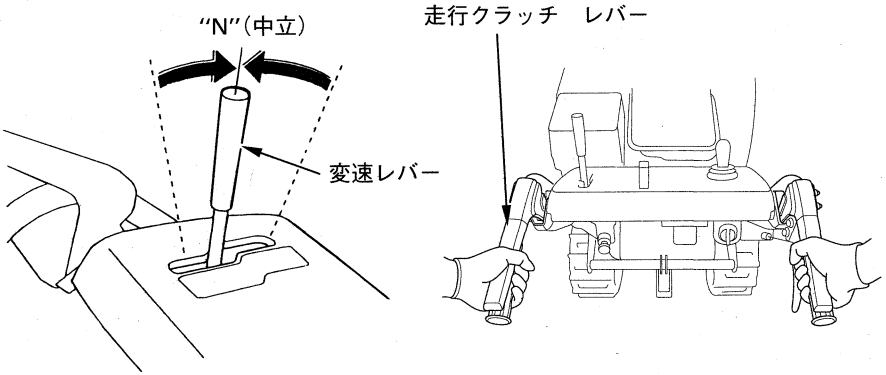
## ⚠注意

除雪クラッチ　レバーおよび走行クラッチ　レバーを握ると本機が作動します。レバーを握るときには周囲の安全を十分に確認してください。

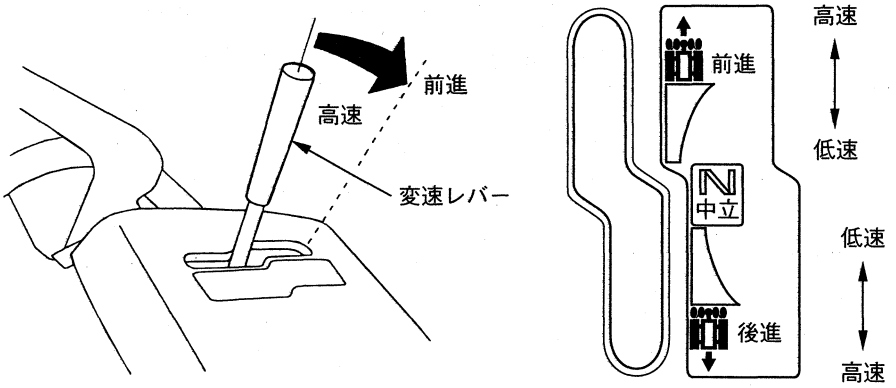
−3. 除雪クラッチ レバーを握り除雪部を回転させます。




−4. 変速レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認した後に走行クラッチ レバーを握ります。

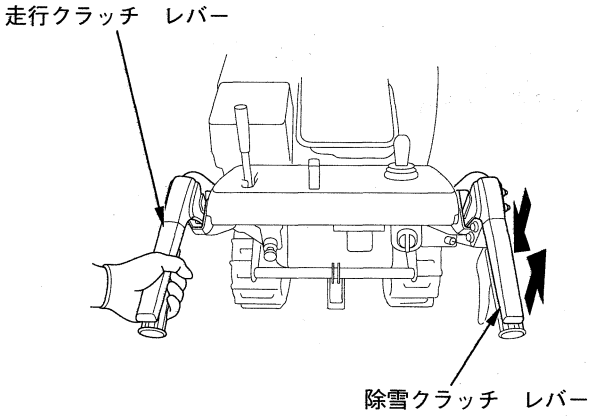


−5. 除雪クラッチ　レバーから手を離し、雪質、積雪量に合わせて変速レバーの位置を選び車速を設定します。




☆除雪クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーの連動手順

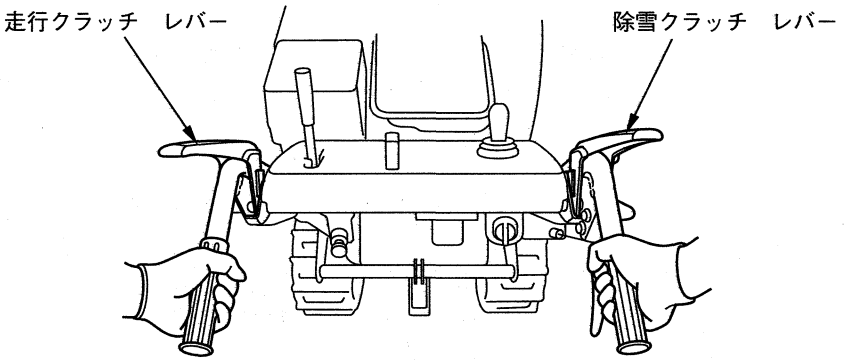
1. 除雪クラッチ　レバーを握りながら次に走行クラッチ　レバーを握ります。
2. 除雪クラッチ　レバーを離しても、除雪クラッチ　レバーが固定され、投雪と走行ができます。
   この状態から走行クラッチ　レバーを離せば、投雪と走行が停止します。




☆除雪の時は、除雪クラッチ　レバーを先に操作してください。

☆移動のときは、走行クラッチ　レバーのみ使用してください。

−6. 投雪および走行を停止する場合は両方のクラッチ レバーから手を離してください。

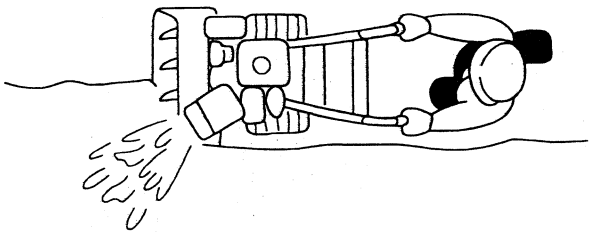



## 5．除雪のしかた

除雪作業はエンジンの回転を落とさず行うことが重要です。そのためには雪による負荷をさけるため、変速レバーは**"低速"**の位置で行ってください。**"低速"**の位置にしてもエンジン回転が落ちる場合は、次の要領を参考にして除雪作業を行ってください。

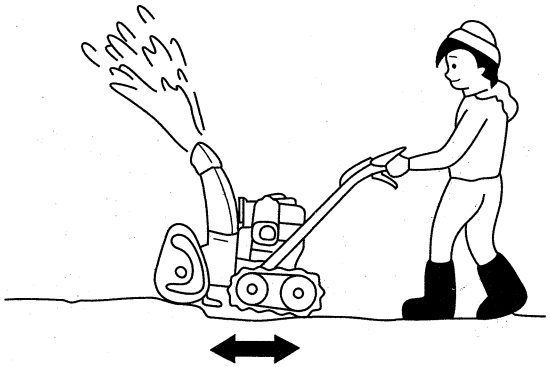
- **除雪幅を狭くする方法**

  深い雪や、固くなった雪の場合は低速で除雪してください。またこのような場合、除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。



• 前後進除雪の方法

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。



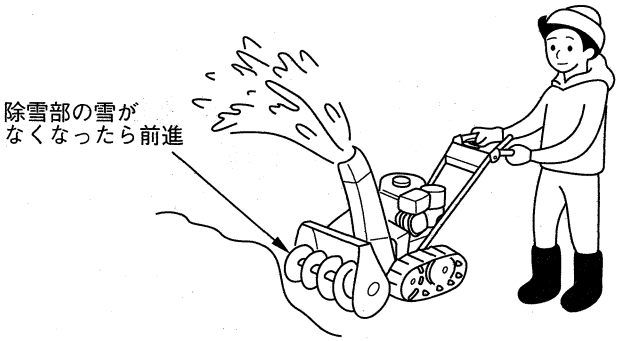
• 断続除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合には、断続的に除雪を行ってください。

(1) エンジン回転が回復するまで走行クラッチ　レバーから手を離します。
(この時除雪クラッチ　レバーは握ったままにしておきます。)

(2) 除雪部の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら走行クラッチ　レバーを握ります。(車速は低速にしておきます。)

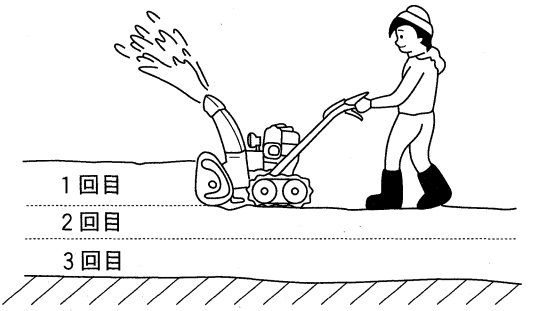
(3) 再びエンジン回転が低下する場合には、(1)～(2)を繰り返して行います。



• 段切除雪の方法

積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合は段階的に除雪を行ってください。

・のぼるときは、オーガ　ハウジング調節レバーを操作し除雪部を少し上げます。

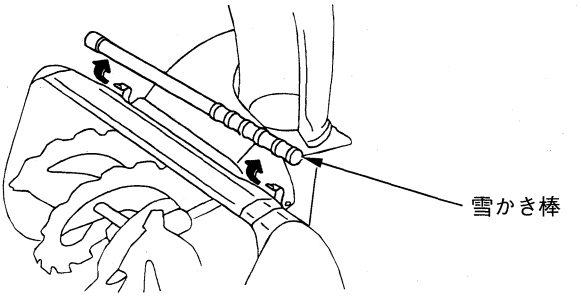



• 投雪口に詰まった雪の除去

**⚠警告**

除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

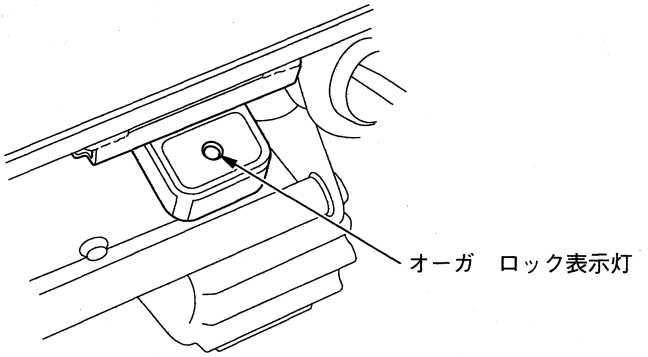
☆除雪作業中、投雪口に雪が詰まったときは、雪かき棒で除去します。




☆雪かき棒は使用後、必ず元の位置にセットしてください。

## 6．オーガ　ロック表示灯が点灯し、エンジンが停止した場合（HS970/HS1170/HS970H/HS1170H）

回転しているオーガ部に石などの異物を噛んだり、縁石などに衝突したりして、エンジンが停止し、オーガ　ロック表示灯が点灯（赤色）した場合、必ず次の手順に従ってください。




**⚠警告**

オーガ部に噛みこんだ異物などを除去するときは、エンジンスイッチを“停止”の位置にし、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外してください。
各回転部が完全に止まっている状態で異物を取除いてください。
エンジンや各回転部が回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

－1．エンジン　スイッチを停止位置にします。
－2．点火プラグ　キャップを取外します。
－3．各回転部が完全に止っていることを確認します。

－4．必要によりオーガ部の雪を除去し、噛み込んだ石などの異物を取除きます。

**取扱いのポイント**

**異物がオーガ　ハウジング等に食い込んで除去しにくい場合は、オーガを逆転させることにより除去しやすくなります。**

－5．点火プラグ　キャップを確実に取付けます。
－6．エンジンを始動します。
－7．除雪クラッチ　レバーを握り、オーガ部を回転させて、オーガ　ロック表示灯が消灯していることを確認します。
－8．走行クラッチ　レバーを握り通常の除雪作業を行います。

- 除雪作業中に異物の噛み込み等によるエンジン停止が発生していないのに、オーガ　ロック表示灯が点灯する場合、システム異常です。異常の場合、エンジン　スイッチを“停止”位置にし、キーを抜いて、お買いあげ販売店にお申しつけください。
- エンジン　スイッチを“停止”にせず、エンジンを再始動すると、異物等を取除いても、オーガ　ロック表示灯が点灯しつづけます。この場合、一度エンジン　スイッチを“停止”にした後、エンジンを再始動してください。

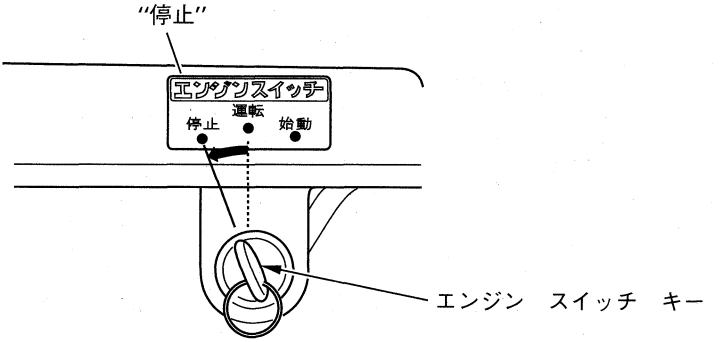
# 除　雪　機　の　止　め　か　た

## ⚠警告

平坦な場所を選んで駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

• 緊急にエンジンを停止する場合

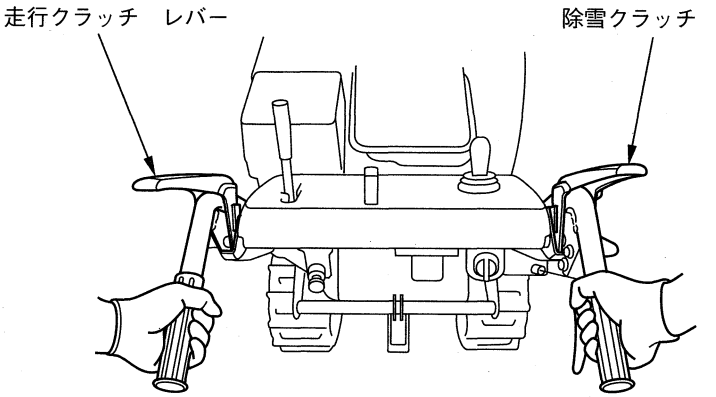
エンジン　スイッチ　キーを"停止"にして、キーを抜きます。



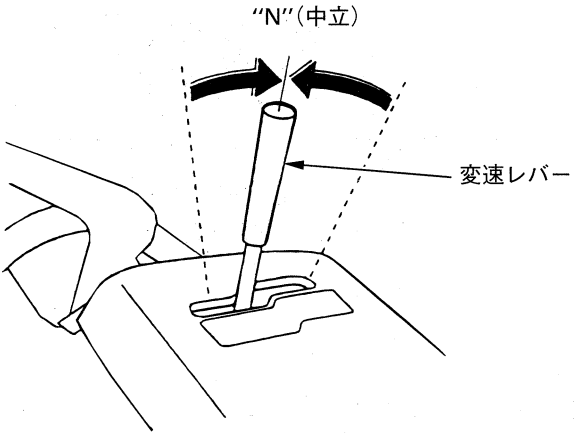

☆エンジン　スイッチ　キーを使って本機を緊急停止させた場合は再び始動する前に変速レバーをニュートラル　ポイントの位置にしてください。

• 通常停止の場合

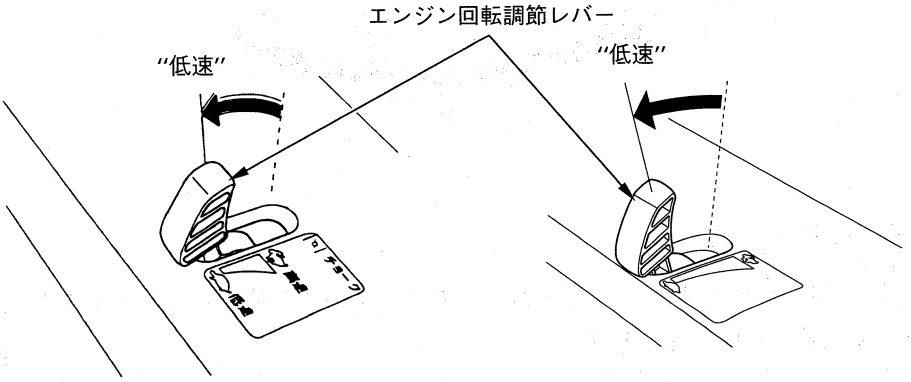
1. 走行クラッチ　レバー、除雪クラッチ　レバーから手を離します。
走行が停止し、数秒後除雪部の回転が停止します。



2. 変速レバーをニュートラル　ポイントの位置にします。

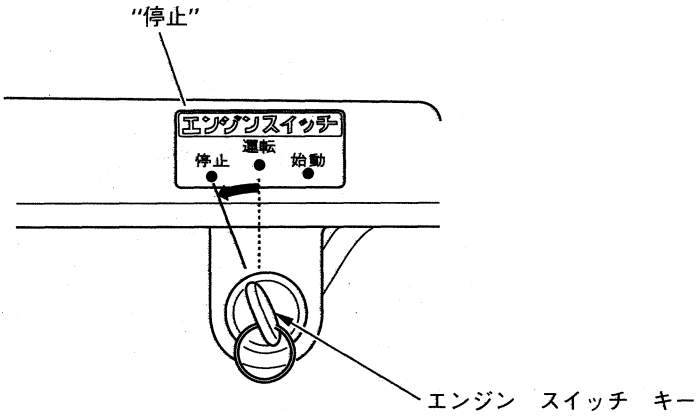



3. エンジン回転調節レバーを**"低速"**にします。

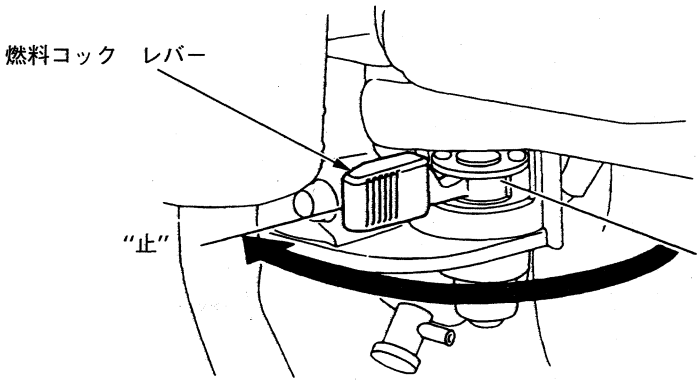



(HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970H)　　(HS1170/HS1170H)

4.エンジン　スイッチを“停止”の位置にして、キーを抜きます。




5.燃料コック　レバーを“止”の位置にします。




**取扱いのポイント**

作業後は、各部の雪を取除いて格納してください。次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

# 定 期 点 検 を 行 い ま し ょ う

お買いあげいただきましたHonda除雪機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

## 定期点検整備項目

| 点検時期(1) / 点検項目 | | 作業前点検 | 1ケ月目又は初回20時間運転目 | シーズン毎 除雪時期初め | シーズン毎 除雪時期終わり | 4年毎 | 参照頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| エンジン オイル | 点検、補給 | ○ | | | | | 25 |
| | 交換 | | ○ | ○ | | | 56 |
| オーガ ミッション オイル | 点検、補給 | | | ○(2) | | | ——— |
| HST変速機オイル | 点検、補給 | ○ | | | | | 21 |
| バッテリ液 | 点検 | ○ | | | | | 26 |
| | 比重点検 | | | ○(2) | | | ——— |
| 点火プラグ | 点検、調整 | | | ○ | | | 57 |
| | 交換 | | | | | ○(250時間運転毎) | ——— |
| ソリ、スクレーパ | 点検、調整 | ○ | | ○ | | | 41 |
| クローラ | 調整 | | | ○ | | | 58 |
| オーガ、ブロア ロック ボルト | 点検 | ○ | | | | | 28 |
| 各部締め付け点検 | 点検 | ○ | | | | | ——— |
| 燃料ろ過カップ | 清掃 | | | | ○ | | 65 |
| タンク、キャブレータの燃料 | 抜き | | | | ○ | | 64 |
| 格納時各部防錆、給油 | 給油 | | | | ○ | | 67 |
| シュータ ガイド コントロール ケーブル | 点検、調整 | | | ○(2) | | | ——— |
| オーガ クラッチ ケーブル | 点検、調整 | | | ○(2) | | | ——— |
| 走行クラッチ ケーブル | 点検、調整 | | | ○(2) | | | ——— |
| スロットル、チョーク ケーブル | 点検、調整 | | | ○(2) | | | ——— |
| オーガ ハウジング調節レバー | 動作点検 | | | ○(2) | | | ——— |
| 走行ベルト | 点検、調整 | | | ○(2) | | | ——— |
| オーガ ベルト | 点検、調整 | | | ○(2) | | | ——— |
| アイドル回転 | 点検、調整 | | | ○(2) | | | ——— |
| 吸入、排気弁すき間 | 点検、調整 | | | ○(2) | | | ——— |
| トランスミッション | グリス塗布 | | | ○(2) | | | ——— |
| 燃焼室 | 清掃 | 250時間運転毎(2)(3) | | | | | ——— |
| 燃料タンク、ろ過網 | 清掃 | | | | | ○(2) | ——— |
| 燃料チューブ | 点検 | 2年毎 | | | | | ——— |
| | 交換 | | | | | ○(2) | ——— |

(1)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(2)適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店にお申しつけください。

(3)表示時間を経過後すみやかに実施してください。

# 点　検　・　整　備　の　し　か　た

**⚠警告**

- 点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを外し、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

## エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：1ケ月目または20時間運転目、以後：年一回除雪時期の初め

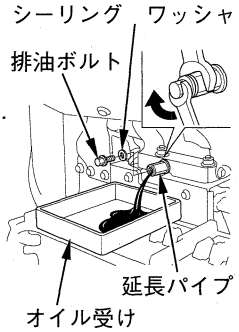
《推奨オイル》(4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル)

Honda純正汎用寒冷地オイル(SAE 5W-30)またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジン　オイル。

《オイル容量》　HS660/HS660H……　0.55ℓ

HS760/HS760H……　0.6ℓ

HS970/HS1170/HS970H/HS1170H……　1.1ℓ




**⚠警告**

エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

《交換のしかた》

1. オイル受けを用意し、セットしてください。
2. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルをぬきます。
   排油ボルトを外すときは延長パイプをスパナで固定して外してください。
3. オイルがぬけたら新しいシーリング　ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
4. 新しいエンジン　オイルを給油口の上限(HS660/HS760/HS660H/HS760H)または口元(HS970/HS1170/HS970H/HS1170H)まで注入します。(25頁参照)
5. 注入後、オイル給油キャップを確実に締付けます。

**取扱いのポイント**

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けらています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- 外したシーリング　ワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリング　ワッシャを使用してください。

## 点火プラグの点検、調整、交換

**⚠注意**

エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

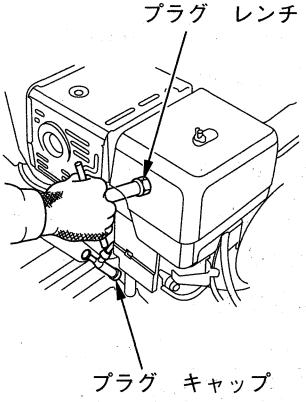
電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《点検時期》

年一回除雪時期の初め

清掃のしかた

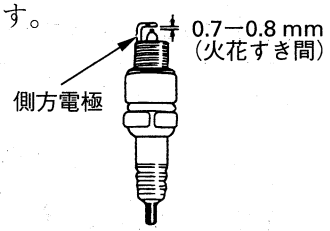
1. 点火プラグ　キャップを取外してください。
2. プラグ　レンチ(同梱工具)で点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。




調整のしかた

側方電極を曲げて火花すき間を下記寸法に調整します。

適正すき間：0.7－0.8 mm




《交換時期》

250時間運転毎または4年毎

《指定点火プラグ》

BP5ES (NGK)，W16EP-U (DENSO)

**取扱いのポイント**

- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
  点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付てください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

## クローラ張り調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

**《点検時期》**

年1回除雪時期の初め

**点検のしかた**

クローラ中央部を強く〈約 49 N( 5 kgf)〉押したときたるみが下記寸法になっているか点検します。

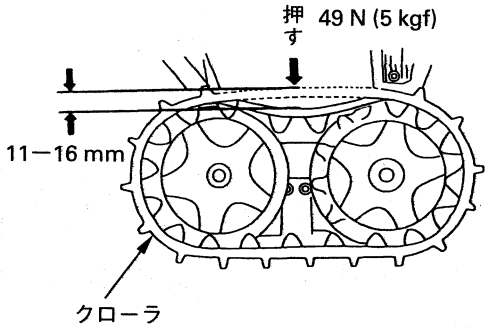
適正寸法：11－16 mm

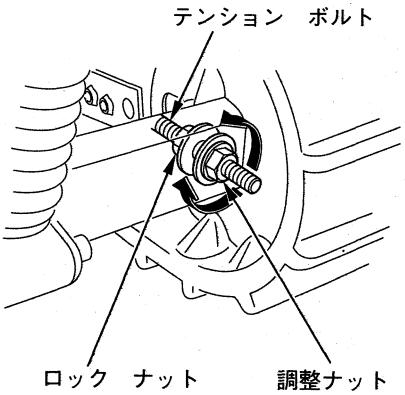
**調整のしかた**

1. ロック　ナットをゆるめて、調整ナットを回して調整してください。
   右に回わすとクローラは張ります。
   左に回わすとクローラはゆるみます。
2. 規定量になるように調整してください。
3. 調整後確実にロック　ナットを締付けてください。
4. 左右同じ方法で点検し、均等に調整してください。

**取扱いのポイント**

**クローラ　ゴムが凍結しているときは正しい張り調整ができません。**
**必ず凍結を取り除いてから調整してください。**



## 除雪部の点検

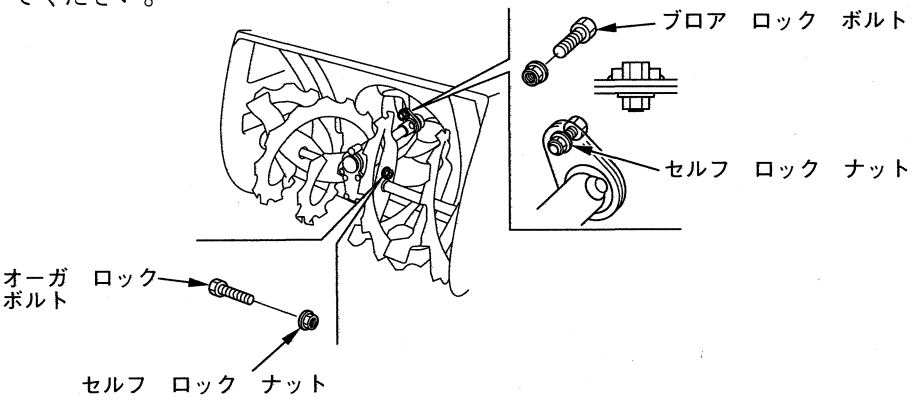
オーガ、ロック　ボルト、オーガ　ハウジング、ブロアに損傷のないことを点検します。

オーガ、ブロアのロック　ボルトのゆるみ、折れを点検します。

もし折れている場合は下記の手順で同梱されているロック　ボルトと交換してください。

**ロック　ボルトの交換方法**

1. 本機を平坦な場所に水平に止めてください。
2. 除雪クラッチ　レバーを**"止"**にしてください。
   走行クラッチ レバーを**"止"**にしてください。
3. 変速レバーを**"N"(中立)**にしてください。
4. エンジン　スイッチを**"停止"**にして、点火プラグ　キャップを外して各回転部が停止していることを確認してください。
5. オーガ、ブロアの凍結または異物(石、棒、針金など)を取除きます。
6. 除雪部を点検してください。
7. 折れたロック　ボルトを取除き、新しいロック　ボルトと交換し、確実に締付けてください。




☆新しいロック ボルト、ナットはお買いあげ販売店にご注文ください。

☆オーガ、ブロア ロック ボルトはそれぞれスペア部品が同梱されています。
使用した場合は、万一に備え補充しておいてください。

## 各部の作動点検

年一回除雪時期の初めに、次の点検を行ってください。

・エンジンの始動、停止
・レバー類の作動
・スイッチ類の作動
・その他の可動部分の作動

## ヒューズについて

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

規定容量……メイン　ヒューズ:30A／サブ　ヒューズ: 5 A ･･･HS970/HS1170
HS970H/HS1170H

メイン　ヒューズ:20A／サブ　ヒューズ: 5 A ･･･HS760/HS760H
メイン　ヒューズ:5A･･･HS660/HS660H

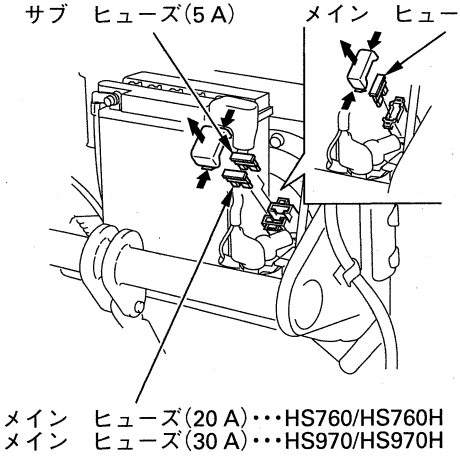
**取扱いのポイント**

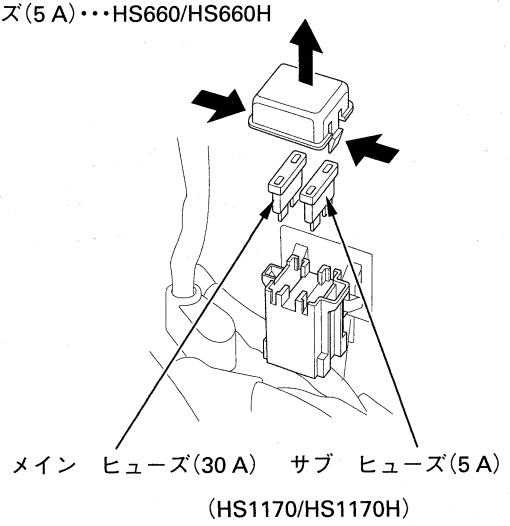
指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

1. バッテリ　カバーを取外してください(26頁参照)。
2. 切れたヒューズを新品のヒューズ(5 A・20 A・30 A)と交換してください。

☆指定ヒューズは、お買いあげ販売店にご注文ください。



# 運　搬　す　る　と　き　は

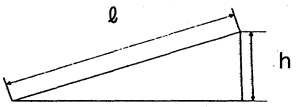
## アユミ板を使ってトラックへの積み降ろし

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。

本機の総重量：HS660/HS660H …… 99 kg　HS760/HS760H …… 104 kg
HS970/HS970H …… 121 kg　HS1170/HS1170H … 132 kg

3. 下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなアユミ板を選んでください。




| アユミ板の長さ（ℓ） | 2.5 m | 3.08 m | 3.5 m |
|---|---|---|---|
| 地面からアユミ板までの高さ（h） | 50 cm | 60 cm | 70 cm |

4. 幌または、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。
5. 燃料が十分あるか確認してください。“空”に近いとエンストしてしまうことがあります。

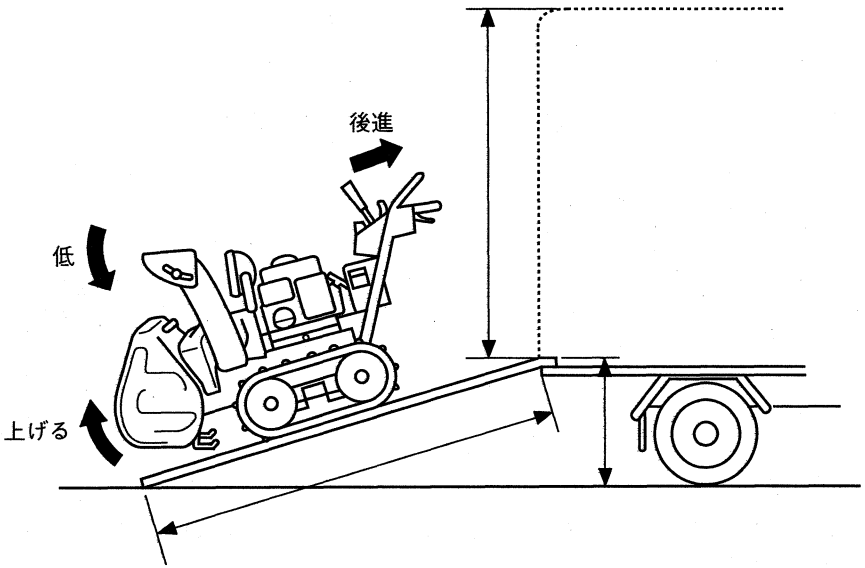
《手順》

①アユミ板の幅をクローラの幅に合わせます。
②オーガ　ハウジング調節レバーを操作して、除雪部を最上位置まで上げます。
③投雪方向調節スイッチ（レバー）で投雪口を下までいっぱいに下げます。

④変速レバーを後進に入れ十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。
⑤除雪部が幌などに当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

**⚠注意**

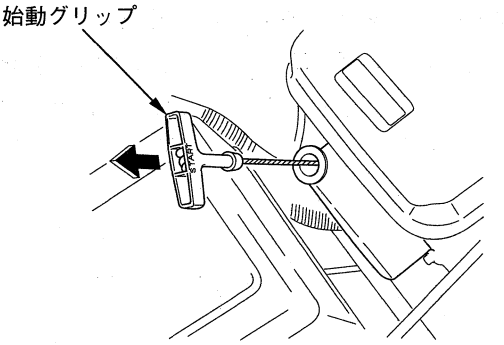
アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は変速レバーを"N"(中立)にして再始動してください(29頁参照)。HST切り換えレバーは手押しの位置にしないでください。本機が空走することがあります。



# 長期間使用しないときの手入れ

降雪シーズンも終わり長期保管するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

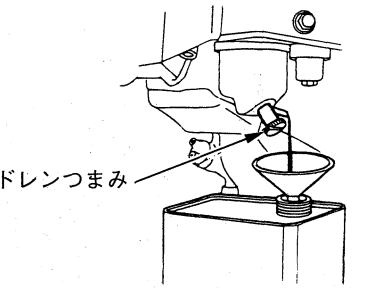
1. 保管するときは、オーガ　ハウジングを接地させ、エンジン　スイッチ　キーを外してください。
   始動グリップを引き重くなったところで止め、しずかにグリップをもどしてください。




2. 燃料タンク、キャブレータ(気化器)のガソリンを抜きます。

《抜きかた》

−1 燃料コック　レバーを“出”に合わせます。
−2 気化器のドレンつまみをゆるめてガソリンを容器に受けます。
−3 完全にぬけたらドレンつまみを確実に締付けます。
−4 燃料コック　レバーを“止”にします。




## ⚠警告

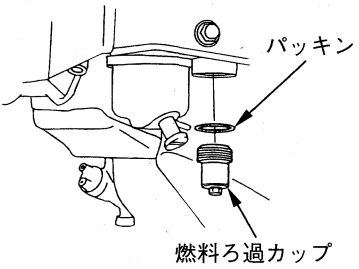
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

3. 燃料ろ過カップの清掃

−1 カップを外し洗油で洗浄します。

−2 パッキン、カップを取付け確実に締付けます。




**⚠警告**

作業は風通しの良い場所で行い、燃料の付近でタバコを吸ったり炎など火気を近づけないでください。

4. バッテリの手入れ

長期間使用しないときは、バッテリの⊖端子を外しておいてください。

長期間バッテリを使用しないとバッテリは放電します。6ヵ月に一度及び除雪時期の初めと終わりにバッテリを外して補充電を行ってください。

- バッテリの充電は、換気の良い安全な場所で行ってください。

**⚠警告**

- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。
  バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。
  破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

充電のしかた

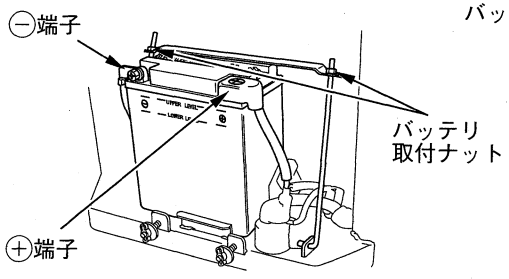
−1. バッテリ液の点検をします。(26頁参照)

−2. バッテリコードを㊀端子から外した後㊉端子を外します。

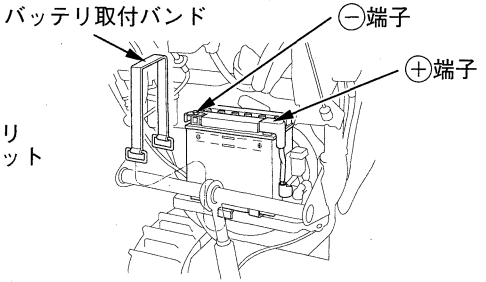
−3. HS660/HS660H:
バッテリ取付けナットをゆるめ、ブリーザ　チューブを外しバッテリを除雪機から外します。
HS760/HS970/HS1170/HS760H/HS970H/HS1170H:
バッテリ取付けバンドを外し、ブリーザ　チューブを外しバッテリを除雪機から外します。

−4. バッテリ　キャップを外し、充電器のコードを＋端子、−端子の順に接続して充電します。
充電器は12V用を使用し、HS660/HS760/HS970/HS660H/HS760H/HS970Hは1.2A、HS1170/HS1170Hは1.8Aで5〜10時間充電してください。

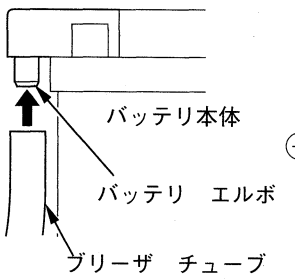
−5. 充電終了後、バッテリにバッテリ　キャップを取付けます。次にバッテリを除雪機に取付けます。取付けは、取外しの逆手順で行ってください。
バッテリ取付け後、ブリーザ　チューブがバッテリ　エルボに取付けられていることを確認してください。

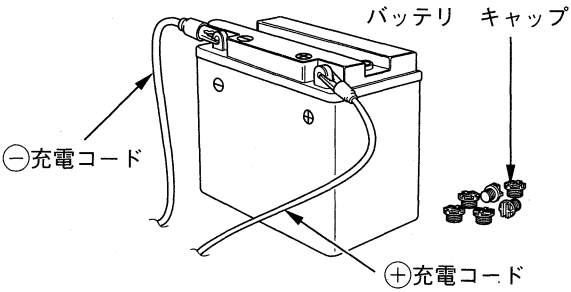


(HS660/HS660H)



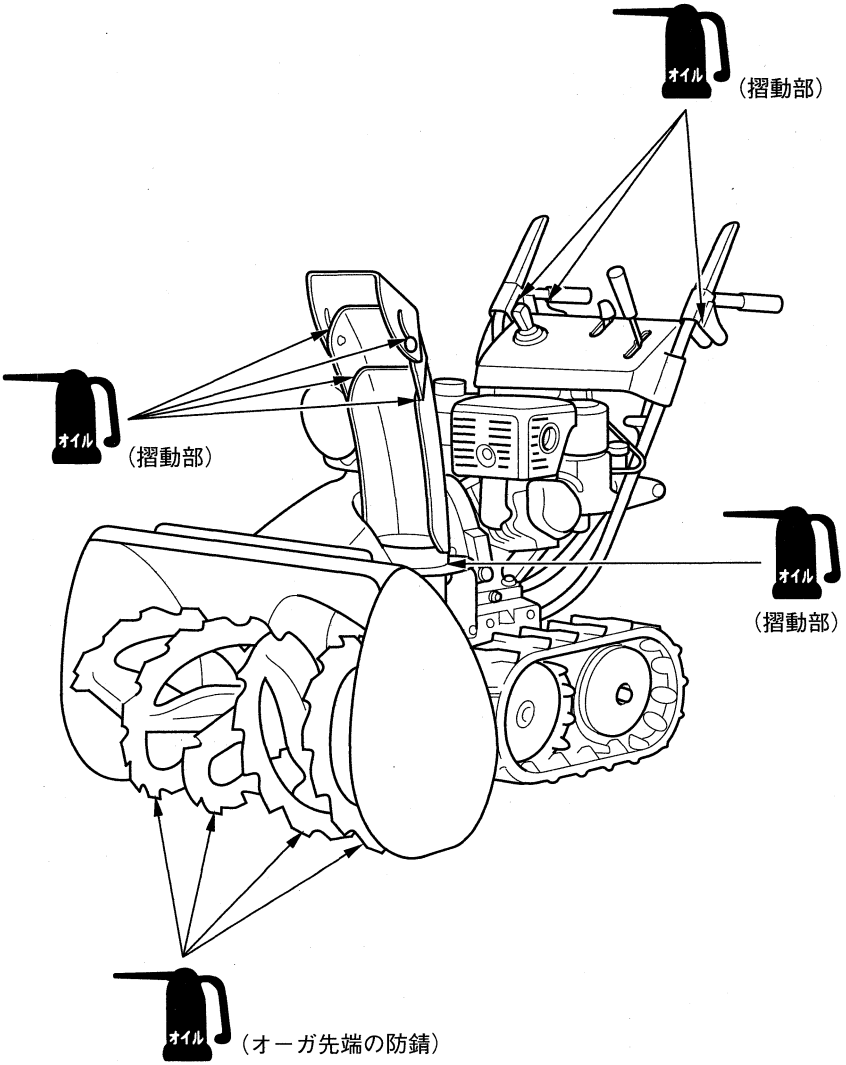
(HS760/HS970/HS1170/HS760H/HS970H/HS1170H)



• 保管時の給油箇所

作業を終わり次のシーズンまで保管する前に次の箇所にオイルを補給してください。



# 故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、早めにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが、除雪機を長持ちさせる秘けつです。毎年シーズン前に点検を受けましょう。

始動しないときは、次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書どおりですか?（29 ～ 40 頁参照）
2. ガソリンはありますか?（23 頁参照）
3. 燃料コック　レバーは"出"の位置になっていますか?（29 頁参照）
4. エンジン　オイルは規定量ありますか?（25 頁参照）
5. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適性ですか?（57 頁参照）
   - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいて
もう一度確めましょう

# 主　　要　　諸　　元

| 名　　称 | HS660, HS660H | HS760, HS760H | HS970, HS970H | HS1170, HS1170H |
|---|---|---|---|---|
| 型　　式 | SZAJ | SZBE | SZAS | SADJ |

エンジン

| 名　　称 | GX160K1 | GX200 | GX270 | GX340 |
|---|---|---|---|---|
| 最大出力 | 4.4 kW (6.0 PS)/ 4,000 rpm | 5.1 kW (7.0 PS)/ 3,600 rpm | 6.6 kW (9.0 PS)/ 3,600 rpm | 8.1 kW (11.0 PS)/ 3,600 rpm |
| 排気量 | 163 $cm^3$ | 196 $cm^3$ | 270 $cm^3$ | 337 $cm^3$ |
| 内径×行程 | 68 × 45 mm | 68 × 54 mm | 77 × 58 mm | 82 × 64 mm |
| 始動方式 | セルフ　スタータおよびリコイル　スタータ併用 | | | |
| 点火方式 | トランジスタ　マグネト式 | | | |
| オイル容量 | 0.55 ℓ | 0.6 ℓ | 1.1 ℓ | |
| 燃料タンク容量 | 3.5 ℓ | | 6.0 ℓ | 6.5 ℓ |
| 点火プラグ | BP5ES (NGK)<br>W16EP-U (DENSO) | | | |

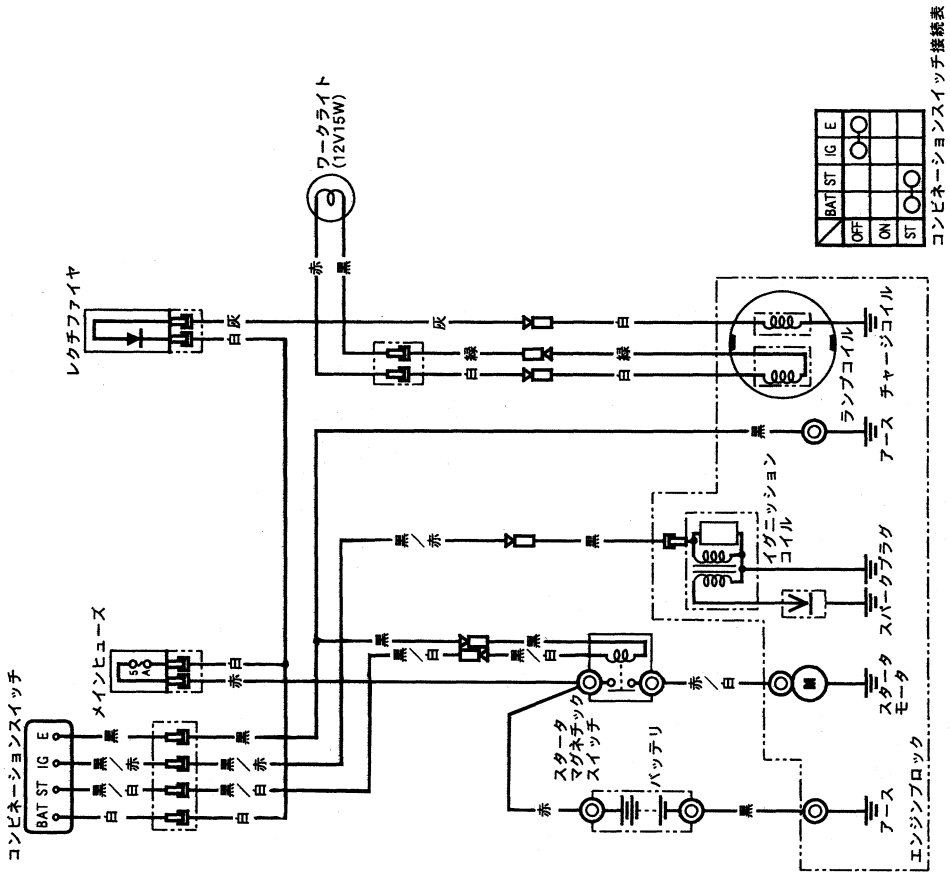
フレーム

| 全　　長 | 1,335 mm | | 1,400 mm | 1,420 mm |
|---|---|---|---|---|
| 全　　幅 | 620 mm | | 725 mm | |
| 全　　高 | 986 mm | 1,110 mm | 1,155 mm | |
| 乾燥重量 | 94 kg | 99 kg | 115 kg | 125 kg |
| 除雪幅 | 605 mm | | 710 mm | |
| 除雪高 | 420 mm | | 510 mm | |
| 投雪距離 | 最大12 m | 最大14 m | 最大15 m | 最大16 m |

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

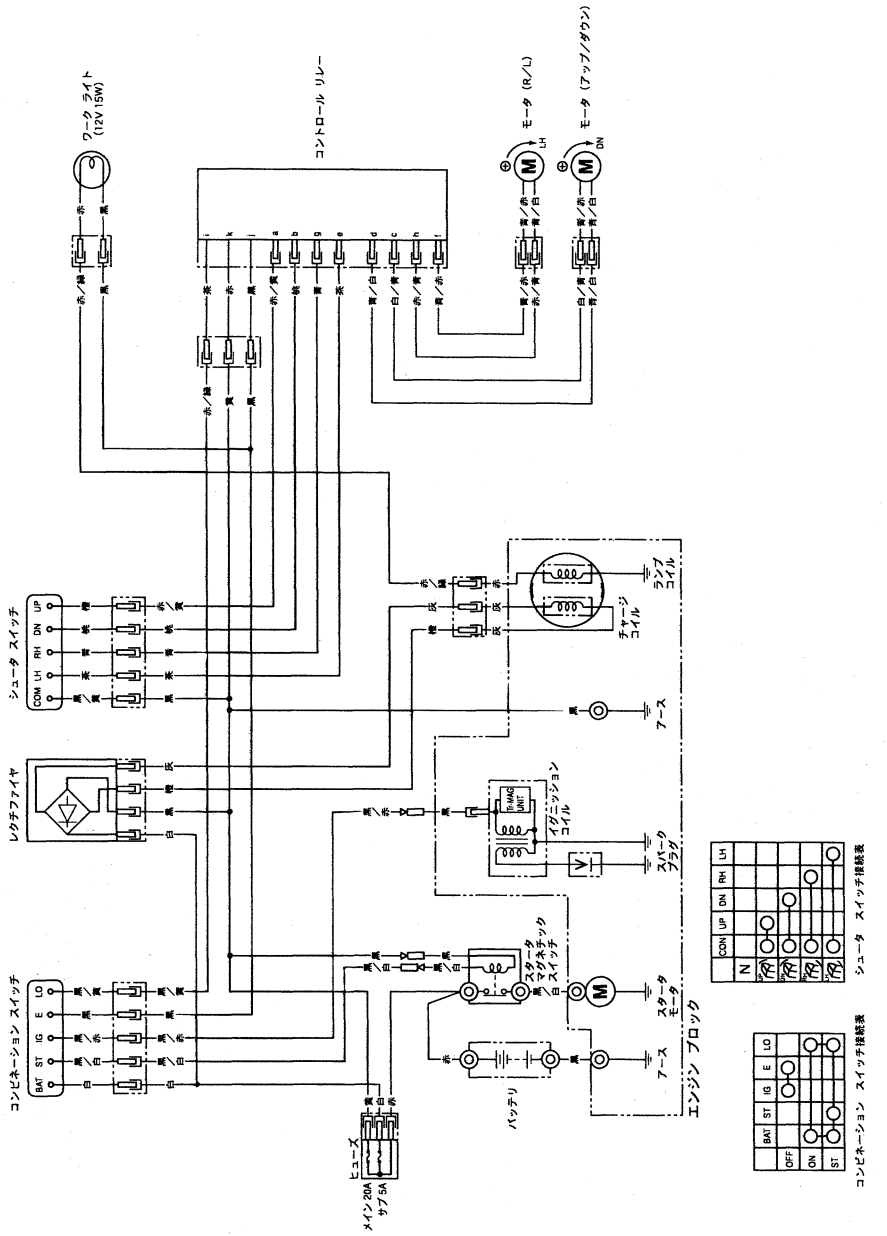
# 配　線　図

(HS660/HS660H)



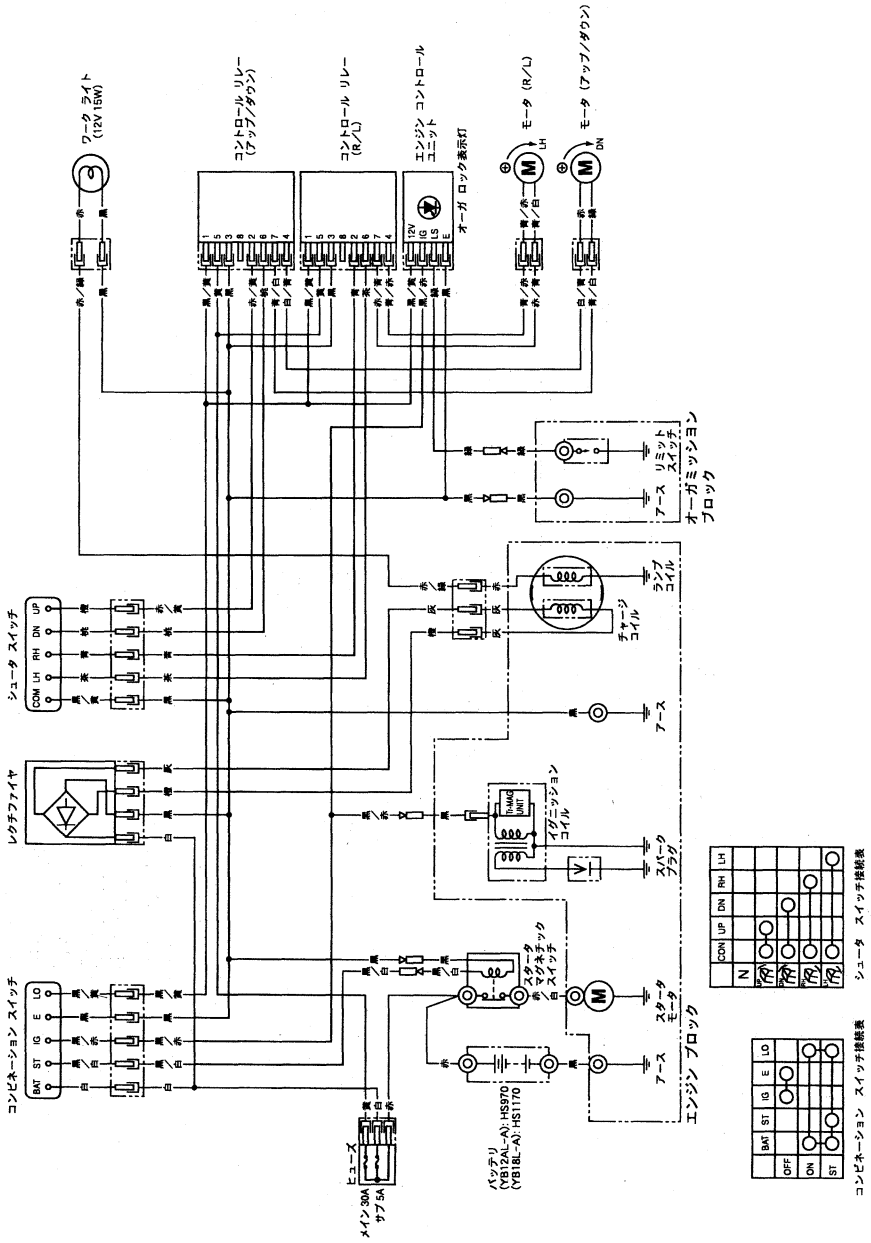
# 配　線　図

(HS760/HS760H)



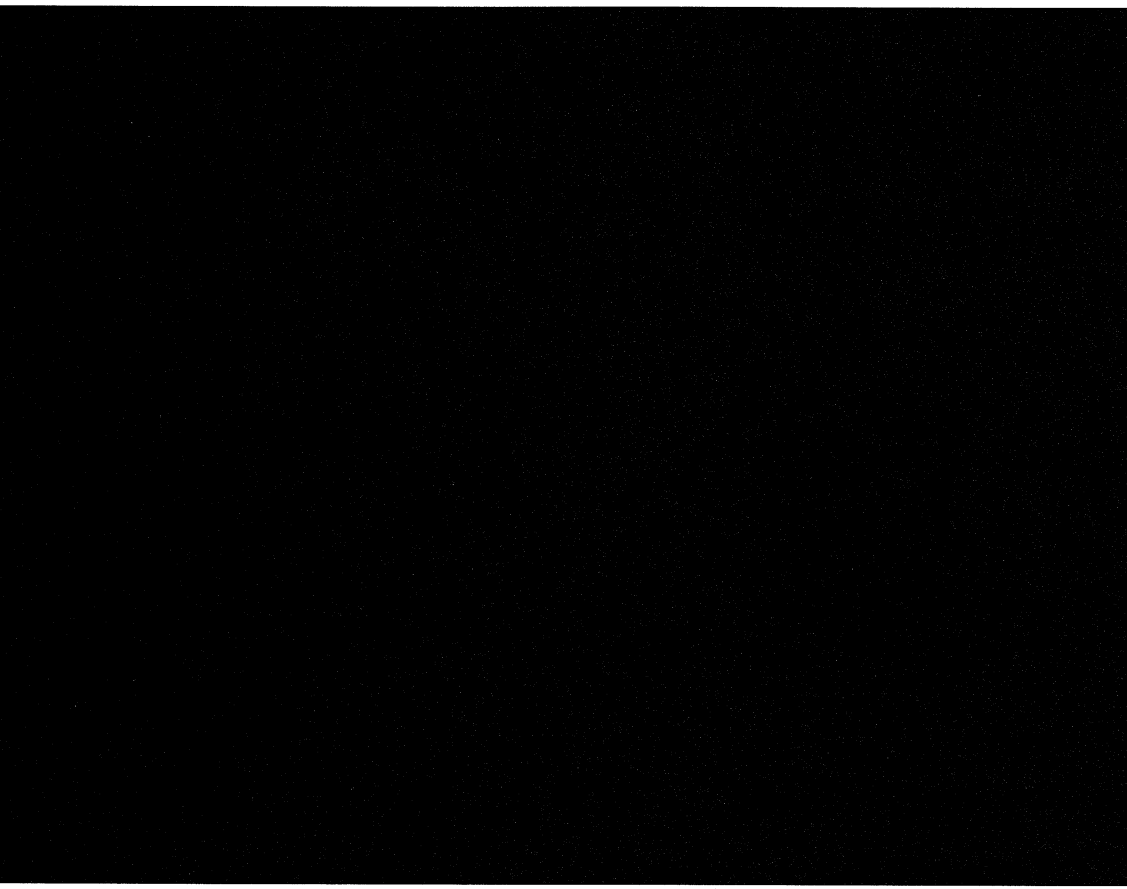
# 配　線　図

(HS970/HS1170/HS970H/HS1170H)



HONDA

The Power of Dreams



K2:HS760 K3:HS970
K4:HS660

30767718
00X30-767-7183

Ⓢ ⓃⒽⒸ 100.2009.01
©2003 本田技研工業株式会社